

5
11
170

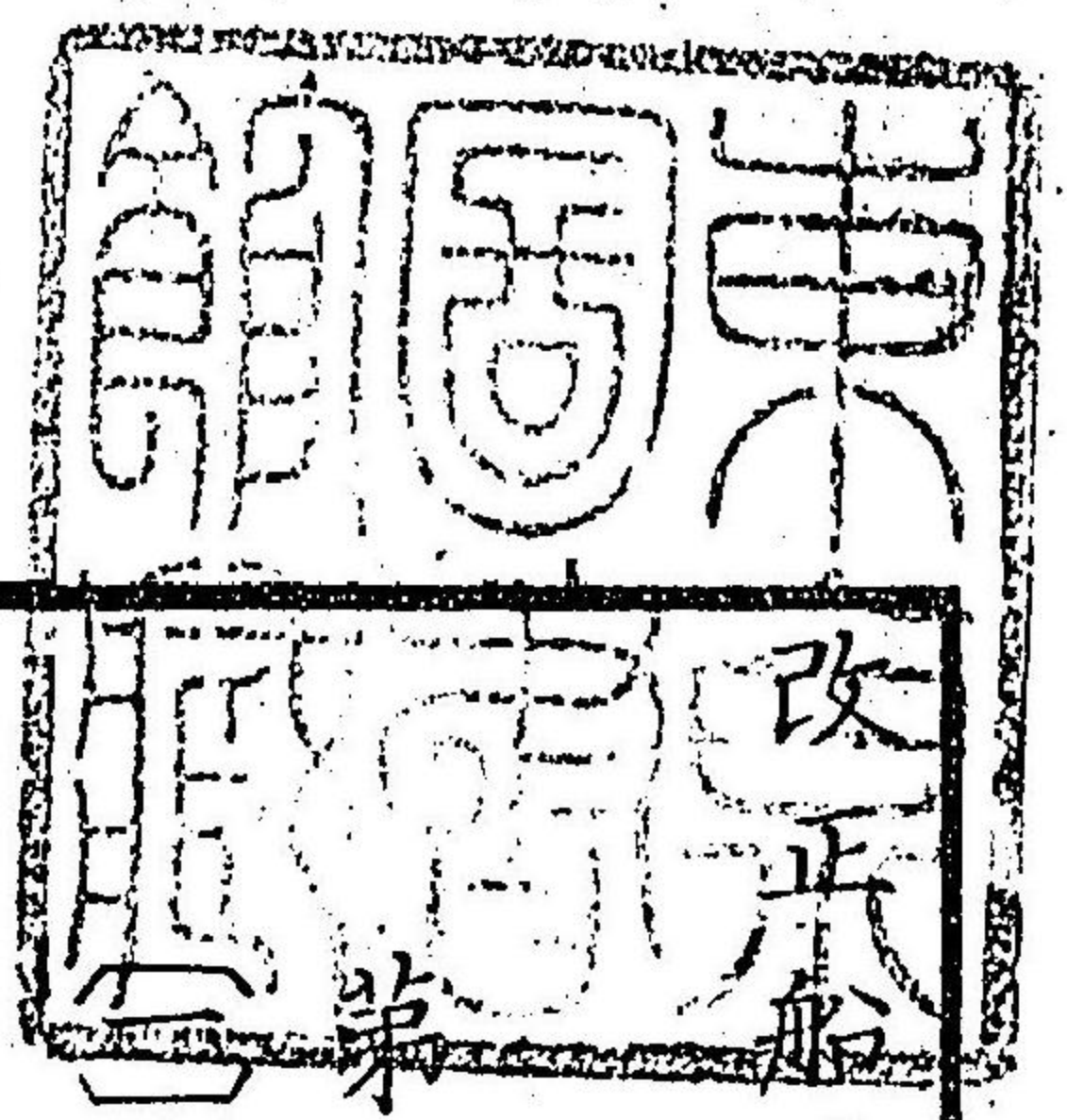
東 京 圖 書 館				
一 冊	七 〇 号	三 架	五 函	類 屬

十一

海軍中佐本山漸編輯
改正船具運用教授書

卷六上

明治十五年七月刊行



具運用教授書卷之六上

目次

第六教

拔錨出帆廻頭及ヒ投錨法

舵及ヒ帆ノ功用

帆ノ功用

セイルニ由テ船前進スルノ理

セイルヲ成ル丈ケ平ラニ掛クルノ利益

ウーザルヘルムヲ要スル理

スクルー、シップハセイリング、シップヨリ

ウエ

海軍兵學校

第六上

目次

海軍兵學校

ーザル、ヘルムヲ多ク要スルノ理
スクルー、シップハセイリング、シップヨリ上
手廻ハシヲナシ難キノ理

バランズド、ラッダ

ウーザル、ブレースハリ、ブレースヨリ

張りカヲ多ク受クルノ理

オン子、ウインドニ走ル片、スバル、ヤードヲ

ロニア、ヤードヨリモ多ク入廻スルノ理

風ノ強弱

拔錨出帆諸法

總説

出帆ノ片廻頭スル法

オン子、ウインドニ出帆スル法

出帆ノ片装帆ノ三法

船尾ニ泊船アル片出帆スル法

垂錨ニテ出帆スル法

後退出帆法

他船ニ舳索ヲ取りテ出帆スル法

風船首ヨリ来リ船尾ノ方ニ岩礁淺瀬等

アリ此時「クヂ」エンコルヲ用ヒ「オン子、ウ

ンド」ニ於テ「スターボード、テッキ」ニ出帆

スル法

天候不良ナル片風下ノ近岸ヨリ出帆ス
ル法

ロープヤーンヲ以テ「トップスルヤード」ヲ
括留メ出帆スル法

風下ニ濱岸アル所ヨリ「スプリング」ヲ用
ヒ「エンコル」ヲ捨テ、出帆スル法

潮流出帆

風潮ニ向テ泊シ左舷ニ廻頭シ「スターボ
ールド」ヲキニ出帆スル法

風潮ニ向テ泊シ後退シテ出帆スル法

向風泊ニシテ逆風潮ナル片右舷ニ廻頭

シ「スターボールド」ニ出帆スル法

向潮泊ニシテ風右舷ノ二點ヨリ来ル片

右舷ニ廻頭シテ出帆スル法

向潮泊ニシテ風右舷「スターボールド」ヨリ来ル

片「スターボールド」ヲキニ出帆スルニハ餘

地ナキ故ニ「ポイント」ヲキニ出帆スル法

同第二法

風下ノ陸岸ニ向潮泊ヲナシテ出帆スル

法
甲「スプリング」ヲ用フ
乙後退法

従風潮ニ泊シ船尾及ヒ兩横ニ危険アル

片出帆スル法

風潮ノ方向反對シテ中流ニ横泊スル片
出帆スル法

汽船出發ノ心得

適帆法

總説

下廻

風後方ニ廻ハリ「ピソール、ゼ、ビーム」ノ

一點ニ至ル時

風後方ニ廻ハリ「エバフト、ゼ、ビーム」ノ

一點ニ至ル時

風後方ニ廻ハリ「オン、ゼ、タートル」ニ至

ル時

風後方ニ廻ハリ「オン、ゼ、タートル」ノ一

點ニ至ル時

風船尾ニ廻ハリタル時

上廻

風前方ニ廻ハリ「ポート、タートル」ニ至

ル時

投錨諸法

總説

オン、子、ウインド」ニ走り投錨スル法

ピソール、ゼ、ウインド」ニ走り投錨スル法

航進ノ儘直チニ投錨スル法
 天候不良ナルニ至ラハ出帆セサルヲ得
 サル所ニ沖泊スル法
 放棄シタル「エンコル」ヲ拾揚ル法
 潮流アル處ニ投錨スルノ心得
 船艦羈泊ノ法
 スプリングヲ以テ碇泊スル法
 汽船投錨ノ法

改正船具運用教授書卷之六上目次終

改正船具運用教授書卷之六上

海軍中佐 正六位 本 山 漸 編輯
勲五等

第六教

〔三〕拔錨出帆廻頭及ヒ投錨法

舵及ヒ帆ノ功用

舵ノ功用

凡ソ「ラダ」ノ功用ハ運動アル船ヲ速易ニ回轉シ或ハ
 他因ニ由テ起レル船ノ回轉ヲ停止スルモノニシテ
 之レヲ再言スレハ「ラダ」ハ機ニ臨ミ變ニ應シ船ヲ運
 轉シテ之レニ隨意ノ針路ヲ保タシムルヲ以テ其功

用トナス

水流動セス船モ亦夕運動セサルキハ何レノ方向ニ
 ラダヲ轉スルモ其兩側ノ水分ヲダヲ壓迫スルノ力
 互ヒニ相異ナルトナシ故ニ百方之レヲ旋ラスモ其
 功毫モ顯ハル、トナシ然レモ之レニ反シ水派動セ
 サルモ船運動スルカ又船運動セサルモ水派動スル
 キハラダノ方向キールト一直線ナルノ他ハ皆其功
 顯ハル、モノトス

船水ヲ切リテ前進スルキヘルムヲ正中ニ保チラダ
 ノ方向キールト一直線ナレハ其左右ニ流動スル水
 分互ヒニ其力ヲ同ウシ且ツ平行シテ流ル、ヲ以テ

ラダニ激衝スルトナケレハラダモ亦其功ヲ顯ハス
 トナシ然レモ之レニ反シヘルムヲ右舷ニ取りテラ
 ダヲ左舷ニ轉スレハ右舷ニ沿流スル水分ハラダニ
 觸ル、トナク左舷ニ沿流スル水分ハ多少ノ角度ヲ
 以テラダニ激衝スルカ故ニ船尾ヲ右舷即チ右方ニ
 轉シ船首ヲ左舷即チ左方ニ轉ス又ヘルムヲ左舷ニ
 取りテラダヲ右舷ニ轉スレハ同理合ヲ以テ水分ヲ
 ダニ激衝スルカ故ニ船尾ヲ左舷即チ左方ニ轉シ船
 首ヲ右舷即チ右方ニ轉スルト前ニ同シ

又水ヲ切リテ後退スルキハラダノ功用前進ノキニ
 反對スルモノトス

前進及ヒ後退ニ於テ「ラダ」ノ功用ハ前ニ記スルカ如ク然ルモノナリト雖氏亦夕風潮ノ強弱方向「セイ」ルノ兼合及ヒ船艀ノ釣合ニ由テ多少ノ差異ナキ能ハス
「ラダ」ヲ左舷或ハ右舷一杯ニ取切ラント欲スルキ其「ギール」トナスヘキ角度ハ略三十三度ヨリ三十五度ヲ以テ實際ニ適度トス若シ夫レヨリ至大ノ角度ヲ以テ「ラダ」ヲ轉スルキハ帝ニ船ノ回轉ヲ速易ナラシムルノ功ナキ而已ナラス反テ之レヲ遲難ナラシメ尚且ツ航進ヲシテ停止セシムルニ至ルヘシ故ニ回轉ノ實功ヲ奏シ得ヘキ最大ノ角度ハ略三十五度ヲ

以テ限リトナス若シ「ラダ」ヲ轉スル「ラダ」此限リヲ踰エ「ギール」ト直角タラントセハ水分「ラダ」ノ表面ニ向テ直線ニ激衝シ以テ航カヲシテ全ク停止セシムルニ至ルナルヘシ得ヘク製造セルモノナリ
「ラダ」ハ速易回轉ノ用アルモ之レヲ轉スル「ラダ」其限リヲ過クレハ反テ航カヲ減損スルノ害アルカ故ニ常ニ船艀ノ釣合能ク其度ニ適シ「セイ」ルノ力能ク其兼合ヲ保チ以テ船ヲ回轉センカ為メ「ラダ」ヲ用フル「ラダ」勉メテ多カラサラン「ラダ」ヲ要スヘシ
第二百三十九圖 甲 乙 丙 ハ船ヲ回轉スヘキ「ラダ」ノ作

甲圖 ハ水ヲ切リテ前進スル船ニシテ「ヘルム」ハ正中ニ「ラダ」ハ「キール」ト一直線ニアルモノトス斯クノ如キ場合ニ於テハ他ノ原由タトヘハ「セイル」ノ力其兼合ヲ保タサル等ヲ以テ干涉セラル、ニアラサレハ船ハ直線ノ筋ニ沿フテ前進シテ「ラダ」ノ為メニ障害セラル、丁ナク「ラダ」ハ「キール」ト一直線ヲナセル間タハ毫モ船ノ方向ヲ變セス又航進ノ力ヲ減損スル丁ナシ

乙圖 ハ水ヲ切リテ前進スル船ニシテ「ヘルム」ヲ左舷一杯ニ取切りタルモノトス斯クノ如キ場合ニ於テ「ラダ」ハ「キール」ノ筋ヲ横切りテ右舷三十五度マテ

轉スルカ故ニ多少航進ヲ停止スルノ作用ヲナス即チ「ラダ」ハ其右側面ヲ以テ水壓ニ觸接スルヲ以テ船尾ヲ左舷ニ回轉スル丁點線甲ノ方向ニ於ケルカ如クシ而シテ船首ヲ右舷ニ回轉スル丁點線乙ノ方向ニ於ケルカ如クス

丙圖 ハ前ニ反シ水ヲ切リテ後退スル船ニシテ「ヘルム」ハ乙圖ニ同シク左舷一杯ニ取切りタルモノトス斯クノ如キ場合ニ於テハ「ラダ」ハ其後面即チ左側面ヲ以テ水壓ニ觸接スルカ故ニ前進ノ片ト反對ノ作用ヲナシ船尾ヲ右舷ノ方點線丑ノ方向ニ押遣リ而シテ船首ヲ左舷ノ方點線寅ノ方向ニ回轉スルナリ

右ニ圖解セル「ラダ」ノ作用ハ單ニ理論上ニ由ルモノ
 ニシテ實際上ニ於テハ風潮ノ強弱方向「セイル」ノ力
 及ヒ船艀ノ釣合等ノ關係ニ由リ「ラダ」ノミ其功ヲ專
 ラニスルヲ能ハス故ニ船ハ唯「ラダ」ヲ以テ回轉シ得
 ルモノト考フヘカラス
 「ラダ」ノ功用ハ第一水中ニ沈入セル部分ノ面積第二
 船側ヲ沿流スル水分ノ速度第三水分「ラダ」ニ激衝
 スル角度ノ正弦冪ヲ以テ互ヒニ比例スルモノナリ
 ヘルム「ラ」轉スルキ「ラダ」ハ其側面ニ觸ル、所ノ水分
 ヲ歴スルカ故ニ水分ハ之レニ反動ヲ起シ以テ「ラダ」
 ノ表面ニ激衝ヲ行フヘシ此激衝ノ力ハ分解シテ縱

行横行ノニカトナリ甲ハ船ノ速力ヲ減少シ乙ハ「ラ」
 ダト反對セル方向ヘ船尾ヲ押遣ルノ功アリ第二百
 四十圖「ハ」「イ」ヲ激衝ノカトシ「イ」ヲ衝點トシ「甲」「乙」ヲ「ラ」
 ダノ方向トシテ「丁」ヲ轉心ロセントルトシ「イ」トスルキハ甲ハ「ラダ」ニ
 カヲ分解シテ「ニ」「イ」及ヒ「ロ」「イ」トスルキハ甲ハ「ラダ」ニ
 直角ニアリテ「ラダ」ヲシテ「イ」ヨリ「へ」ノ方ヘ轉セント
 シ乙ハ之レニ平行シテ効ヲ顯ハサス倍又「イ」ヲ「丁」ニ
 連接シ而シ「イ」「へ」カヲ「イ」「ホ」及ヒ「イ」「ト」ノニ力ニ分解ス
 レハ甲ハ「イ」「丁」線ノ方向ニアリテ船ヲシテ後退セシ
 メントシ乙ハ此方向ニ直角ニアリテ船尾ヲ「甲」ヨリ
 「丙」ニ轉シ船首ヲ「戊」ヨリ「己」ニ轉セントス此「イ」「ト」カハ

「ラダ」ニ由テ船ノ回轉ヲ起ス所以ノモノニシテ其力
 微少ナルモ其功績著大ナルモノトス是レ此ノ力ノ
 作用ハ轉心ヨリ「丁」「イ」ノ大距離ニアリテ甚長ナル槓
 桿ノ理ニ由レハナリ

帆ノ功用

凡ソ「セイル」ノ力ハ其運用ノ方法如何ヲ問ハス能ク
 「ラダ」ノ力ヲ補助スルニ足ルヘシ而シテ「セイル」ト「ラダ」
 ハ互ヒニ相待ツテ其用ヲナシ決シテ相敵視スヘカ
 ラサルモノトス是故ニ帆走ニ方リ「セイル」ノ力轉心
 ノ前後ニ於テ能ク其兼合ヲ保有シ其共同ノ作用ヲ

以テ「ラダ」ノ力ヲ補助シ以テ「ヘルム」ヲ轉置スルヲ勉
 メテ少カラシムヘシ是レ運用ニ於テ最モ着目スヘ
 キ要事ナリ

凡ソ風「セイル」ニ當ルノ功績ハ「セイル」ノ面積ニ由リ
 テ其形状ニ關セス故ニ「セイル」ノ形正方三角及ヒ直
 方ヲ論セス其面積同シケレハ風ノ壓力相異ナル丁
 ナシ「第二百四十一圖」

「セイル」ノ面ニ想像ノ一點アリ此點ハ若シ「セイル」ノ
 全面ニ當ル所ノ風力ヲコ、ニ集合セハ其功績恰モ
 全面ニ當ルモノト異ナル丁ナシト考定セルモノニ
 シテ之レヲ名ツケテ帆心セントルトト云フ此名

ハ各「セイル」區々ノ風力ニ就テ稱スルノミナラス又
諸「セイル」共同ノ總力ニ就テ稱スルモノナリ「第二百
四十二圖」各「セイル」ノ中ニ畫シタル小圈ハ其帆心ニ
シテ中程ニ畫シタル大圈ハ共同ノ公帆心ナリ
又船ノ中程ニ想像ノ一直垂線アリ船ハ「セイル」ト「ヘ
ルム」ノ作用ニ由テ此線ノ周リヲ回轉ス之レヲ轉軸
「アキス」オフト云フ轉心即チ重心ハ此轉軸中ニアル
モノナリ
轉心ノ位置ハ造船ノ製式ニ由テ定ムル所ナリ而シテ
次ニ「セイル」ノ功用ヲ示サンカ為メ轉心ハ「メイン」、マ
「スト」ノ下ニ在ルモノト假定スト雖モ「メイン」、マ「

スト」ヨリ數尺前ニアルト多シ又船ノ釣合ニ關係ス
ル「甚」タシ此釣合ハ積載セル重物「バル」ラスト等ノ
配置ニ關係スルカ故ニ船「バイ、ゼ、ヘッド」船首ノ吃水船
「フト」ナリ或ハ「バイ、ゼ、ステルン」反對ノ「フト」ナルニ從
テ轉心モ亦前後ニ移動セサルヲ得ス
通常吃水ハ船首ヨリ船尾ヲ深クス是レ殊ニ「ラダ」ノ
作用ヲシテ多カラシメンカ為メナリト雖モ船甚タ
「バイ、ゼ、ステルン」トナルハ所謂「グロッド、ウインド」浴フニ
テ好ク走り風下ニ壓ヲ保タス絶エス「ラダ」ノ補助ヲ
要セサレハ船首常ニ風下ニ落ントスルノ勢アリ又
「バイ、ゼ、ヘッド」トナルハ反對ノ勢アリ此兩者中何レ

ノ場合ニ於ケルモ「セイル」ノ力能ク其兼合ヲ保タス
 シテ絶エス「ラダ」ノ補助ヲ要セサルヘカラサルカ故
 ニ「ラダ」ハ多少ノ角度ヲ以テ航進ノ力ヲ妨害スルナ
 リ
 船「バイゼ」ウインドニ走ルキ其船艀ノ釣合適良ニシテ
 「セイル」ノ力善ク其兼合ヲ保ツト否トハ容易ニ之レ
 ヲ證スヘシ其故ハ波靜カニ風定リタルキ「セイル」ノ
 兼合良善ナルキハ「ヘルム」ノ補助ヲ要スルコト少ナク
 或ハ之レナクシテ帆走スルコトヲ得ヘシ然レ氏若シ
 否ラサルキハ或ハ風上ニ溯ルコトアリテ「左」ガ「ル」ヘ
 ルムヲ要シ或ハ風下ニ落ツルコトアリテ「右」ガ「ル」ヘ

ヲ要シ絶ス「ラダ」ヲ使用セサルヲ得サレハナリ
 今左ニ各「セイル」ノ功用ヲ示ス但シ風ハ正横ヨリ来
 ルモノトス
 「右」ル、トップスル「ラ」ノミ掛クレハ船ヲ前進シテ其「ボ
 ー」ヲ風下ニ落トス
 「左」ル、トップスル「ラ」ノミ逆ニ掛クレハ船ヲ後退シテ
 其「ボ」ヲ風下ニ落トス
 「ミズン」、トップスル「ラ」ノミ掛クレハ船ヲ前進シテ其ス
 テルン「ラ」風下ニ廻ハシ其「ボ」ヲ風上ニ廻ハス
 「ミズン」、トップスル「ラ」ノミ逆ニ掛クレハ船ヲ後退シテ
 其ス「テ」ルン「ラ」風下ニ廻ハシ其「ボ」ヲ風上ニ廻ハス

メイン、トップスルヲノミ掛クレハ唯タ船ヲ前進スル
 ミ
 メイン、トップスルヲノミ逆ニ掛クレハ唯タ船ヲ後退
 ルソミ
 牙ール及ヒ「ミズン、トップスルヲノミ掛クレハ互ヒニ
 兼合ヒテ船ヲ前進セシム
 三檣ノ「トップスル」ジブ及ヒ「スパンカル」ヲ掛クレハ前
 後互ヒニ兼合ヒテ船ヲ前進セシメ「メイン、トップスル」
 ハ他ノニ「トップスル」ヲ補助ス
 三檣ノ「トップスル」ヲ掛クルキ「ラダ」ヲ用ヒスシテ船ノ
 ボーヲ風下ニ廻ハサント欲セハ「アフタル、ヤード」ド
 イメ

ン及ヒ「グ」ヲ入「ス」シ之レニ依リテ「セイ」ルノ「リー」チヲ
 ロギキ
 吹イテ之レヲ飄動セシメ「牙ール、トップスル」ニノミ風
 ヲ入レテ風下ニ廻頭スヘシ
 右ノ如ク風下ニ廻頭セント欲スルキ「ミズン」ノ如ク
 「メイン、ヤード」ヲモ入廻スル所以ハ船躰ハ後方ヨリ
 前ノ方ニ於テ大ナルモノニシテ「メイン、マースト」ニ
 属スル諸「セイ」ルハ「轉心」ヨリ後ニ於テ作用ヲナスモ
 ノナレハナリ
 風「条」トルヨリ吹来ルキ船ノ「ボー」ヲ風上ニ廻ハサ
 ント欲セハ「アフタル、ヤード」ヲ上「廻」シ「スパンカル」ヲ
 掛クヘシ

海軍兵學 卷六 九

セイルニ由テ船前進スルノ理

第二百四十三圖ハ「セイル」ヲ正横ニ掛ケタルモノナリ今風此「セイル」ニ向テ正後ヨリ吹クハ風ノ發生スル所ノ全力船ヲシテ「イ」「ロ」ノ方向ニ於テ風前ニ前進セシム

第二百四十四圖ノ如ク風向船尾ナラスシテ「イ」「ロ」ヨリ吹クモ船ヲシテ尚「イ」「ロ」ノ方向ニ前進セシム
今若シ諸「セイル」ヲ以テ衆多ノ囊ノ集マルモノトスレハ風發生スル所ノカハ其吹ク方向ニ於テ働ラク


ヘキ筈ナリ然レハ風ノ平面ヲ打ツニ當テ其分賦セル運動ハ打ツ所ノ部ニ直角ノ方向ニアリトス
譬へハ「第二百四十四圖」ハ「ニ」ヲ船ノ「セイル」トシ「ホ」「イ」ヲ風ノ方向及ヒカトシテ熟考スヘシ此カハ他ノ二カ「ハ」「イ」及ヒ「ヘ」「イ」ノ共ニ同時ニ推スト等シクシテ此ニカト同シ効能ヲ奏スル「明カナリ然ルニ」ハ「イ」ノカハ平面ニ沿フテ働ラキ「セイル」ニ毫モ効能ヲ奏スル「ナシ唯殘ル所」ハ「ヘ」「イ」ノカノミ必ス打ツ所ノ部ニ直角ノ方向ニ於テ働ラキ船ヲシテ前進セシム是レ風ノ方向ハ「縦令ヒ」セイルニ直角ナラスハ其分賦スル運動ハ打ツ所ノ部ニ直角ナルノ證ナリ

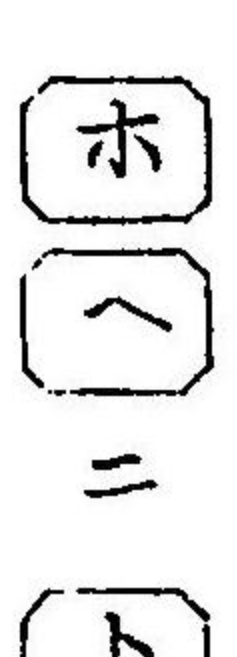
風斜メニ「セイル」ヲ打ツ片ハ之レヲ直角ニ打ツ片ヨ
リモ其效能少ナシ

第二百四十五圖 

「セイル」トシ 

「セイル」トス然レハ 

分子ノ數ニ値リ 

値ルヘシ是故ニ 


損失スル所ノ數トナルヘシ 

「セイル」ヲシテ成ル丈ケ多分ノ力量ヲ得セシメンニ

ハ第二百四十六圖ノ如ク「セイル」ノ面ヲ成ル丈ケ風

ニ多ク當ラシムル様ニ之レヲ裝置スヘシ然レ氏此

ノ如ク「セイル」ノ面ヲ轉變スルヤ否ヤ船ヲ驅進スル

所ノ方向 

首直前ノ筋ニアル丁忽チ止ム

船若シ正シク圓形ナルモノナリセハ船ハ第二百四

十六圖ノ如ク「セイル」ニ直角ノ方向 

ル、ナルヘシ然レ氏船ハ楔子様ノ形状ナルヲ以テ

直頭ト横行トノ二方向ニ驅進セラルヘシ然シナカ

ラ船ノ甚大ナル長サト深サトノ故ヲ以テ偏行ニ對

スル抵抗力ハ至大ニシテ前進ニ對スルモノハ至少

ナリ是故ニ「セイル」ノ後面ニ風ノ當ル間タハ船ヲシ

テ風ニ逆キ方向ニ於テ前進セシムル丁ヲ得ヘシ

譬へハ第二四十六圖ニ於テイヘヲ以テロハノセ
 イルニ直角ノ一線トスヘシ是故ニイヘハ船若シ圓
 體ナリセハ固ヨリ進ムヘキ所ノ方向ニ値ルヘシ然
 スレハイニハ偏行ノ運動ニ値リイホハ前進ノ運動
 ニ値ルトシイヘノ力ハイニトイホトノニカト同シ
 効能ヲ保チテ此ニ力ニ等シトス
 然レ氏船ノ製タルイホノ力ハ船頭ノ形銳楔狀ナル
 ノ故ヲ以テ之レニ對スル抵抗力極メテ輕微ナレハ
 其作用ヲ逞フスル丁ヲ得レ氏イニノ力ハ之レニ對
 スル抵抗力ノ故ヲ以テ其作用ヲ發スル丁至少ナル
 ノミ

是故ニ風ノ發生スル力ノ大量ハ船ヲシテ前進セシ
 ムルノ方向ニ在テ偏行ノ運動ハ全力中只至小分數
 ナルノミ
 同一ノ理ニテビヤールゼ、ビームニ風ヲ受ケテ走ル
 片風セイルノ後面ニ向テ吹ク間タハ船尚前方ニ驅
 進セラレテ其速力ハセイルノ平面風ノ線ニ愈近ツ
 ケハ愈減スルモノナリ第二四十七圖ニ就テ了解
 スヘシ
 船ノ長サニ因テ發スル抵抗力ノ其幅即チ「ボ」ニ由
 テ發スル抵抗力ニ於ケルカ如ク偏行ノ力イロト前
 進ノ力イハト同比例ナル片ハ船ノ前進ト偏行ト其

勢同一ナルヘシ
 機學ニ依レハ凡ソ抗抵ナルモノハ面ノ大サト比例
 アリ且ツ其運動ノ速力冪ト共ニ増勢スト云フ現今
 ノ船舶ニ於テ沈入セル中央截面ト沈入セル舷側邊
 面ニ於ケルハ一ト五ノ如キ比例アリ之レニ加フル
 ニ「ボ」ハ抗抵ヲ受クルト至少ニシテ「サイ」ド「ハ」之レ
 ニ反シテ至大ナルヘク製造セリ是レ比例ノ差甚ク
 大ナル所以ナリ

セイルヲ成ルタケ平ラニ掛クルノ
 利益

前論セル如ク風ノ發生セル力ハ平面ヲ打ツニ當テ
 必ス其打ツ所ノ部ニ直角ノ方向ニアリ
 今「トップ」スルヲ上廻シ其面ヘ無數ノ水平線ヲ直角ニ
 風下ノ方ヘ引ク片ハ風上半分ヨリ引ケル諸線ハ風
 下半分ヨリ引ケル諸線ヨリ遠ク前方ニ指スヘシ風
 下半分ヨリ引ケル諸線ノ中ニハ正シク正横ニ指ス
 モノアリ又正横ヨリ後ヘスラ指スモノアリ
 是故ニ「セイル」ノ風上半分ニ向テ吹ク風ノ發生セル
 力ハ風下半分ニ向テ發生セル力ヨリモ船ヲ前進セ
 シムルニ於テ多分ノ效驗ヲ顯ハスモノニシテ風下
 ニ向テ發生セル力ノ一分ハ船ヲ前進セシメスシテ

唯夕偏流ヲ起シ又其一分ハ實ニ船ヲシテ後退セシムルノミ
 バルーン、ジブ此帆ハ多ク「ヤット」ニ用ヒ「シート」ヲノ利
 益ハ其直垂即チ縦ノ彎曲ハ太夕著大ナレ氏水平即
 チ横ノ彎曲ハ至少或ハ皆無ナルニアリ至少ナル水
 平ノ膨レヲ有ツモ風下半分ニ於テ發生セル風力ハ
 風上半分ニ於テ發生セル風力ト殆ント同シ方向ニ
 アリ
 凡ソ「セイル」ヲ「ブーム」ニ絡縛シテ之レヲ滿面平ラニ
 掛クル片ハ何レノ部ニ於テ發生セル風力モ互ヒニ
 同シ方向ニアルモノナリ

空一ザル、ヘルム」ヲ要スルノ理
 船水ヲ衝テ進ム片風ノ壓力之レヲ風下ニ偏流セシ
 ム是故ニ水ハ兩「ボ」ニ向テ真直クニ前ヨリ推サス
 シテ「リ」、サイド」ノ方ヨリ推スモノナリ故ニ「空一ザ
 ル、ボ」ヨリハ「リ」、ボ」ニ向テ一段真直クニカヲ及
 ホシツテ「リ」、ボ」ヲ風上ノ方へ推シ廻ハスナリ第
 二百四十八圖
 船風下ノ方ニ傾ムク片ハ水中ニ沈ミタル船躰ノ形
 状著シク變シ而シテ「リ」、ボ」ハ水ニ接スル面積大
 トナリ「空一ザル、ボ」ハ其面積小トナルカ故ニ「リ」、

ボートハ偏流ノ有無ヲ論セス風上ノ方ヘ押シ寄セラ
ル、ナリ〔第二百四十九圖〕

船傾ムカスシテ「マースト」正直ナルキハ「セイル」ノ面
ニ當ル所ノ風ハ其面ニ直角ナル線ニ於テカヲ施ス
即チ其方向水平ト平行セリ然レモ若シ船一方ニ傾
ムクキハ此線ノ方向必ス變化ス故ニ「ス」ノ「セイル」
ルハ何レモ壓下スル帆トナリ「ボート」ヲ水中ニ沈
壓スレハ水モ亦之レニ反應スヘキ面積大ナルヲ以
テ「ボート」ヲ風上ノ方ヘ推シ遣ルナリ〔第二百五十
圖甲〕
船一方ニ傾ムクキ之レヲ前進セシムル為メ「セイル」

ニ當ル風ノ壓力ハ「キール」ノ筋ヨリハ風下ノ方ニ及
フカ故ニ施ス所ノカハ全ク船ノ一方ニ偏ス是レ恰
モ一方ノ撓働ラケハ端船ハ他ノ一方ニ回轉スルカ
如ク同シ理ニシテ船ノ「ボート」ヲシテ風上ニ回轉セシ
ムルナリ〔第二百五十圖甲〕

船傾ムクキ此回轉ノカハ各「セイル」ノ推スカノ増ス
ニ從テ増スモノナリ

實地ニ於テ視ルキハ船ノ傾キ凡ソ十二度ナレハ「牙
」ル「マースト」ニ屬スル「セイル」ノ回轉ノカハ此「セイ
ル」ノ「ボート」ニ施セル壓下ノカト共ニ此「セイル」ノ
偏流即チ横壓力ニ頓頑シ却テ此レヨリモ強キヲ知

ルヘキナリテ風上へ回轉スルカ強クシ是故ニ「左」ガ
ル、ヘルム」ヲ要スル」甚タシキ船ニテハ「ブール、トップ
ゲルン」スル」ヲ仕舞ヒ或ハ「メイン、トップ」スル」ヨリモ一
「ブール」多ク「ブール、トップ」スル」ヲ縮ムルヲ良トスル」
アリ
「メイン、トップ」ゲルン」スル」ハ「ブール」ヨリモ船外へ遠ク
其カヲ及ホス」勿論ナリ然ルニ「メイン」ヨリモ「ブール」
ル」ヲ仕舞フ」ヲ良トスルモノハ恰モ端船ノ「アフタ
ル、ブール」ヨリモ「ブール、ブール」ヲ収ムルヲ良トスルト
同一般ナリ
右ニ云ヘル諸般ノカハ風ノ増スニ從テ増スモノナ

リ是故ニ驟風雨ノ片ハ縱令ヒ「アフタル、セイル」ヲ悉
ク仕舞へハトテ船ヲ風ヨリ下手ニ遠クル」ハ太々
難キ」ナリ

スクルー、シップ」ハ「セイリング、シップ」ヨ
リ「ブール」ザル、ヘルム」ヲ要スル」多キ
ノ理

スクルー、エパル」左」ル」ヲ備へタル船風ノ為メニ横
側ニ「歴セラル、片」船底ノ風下ノ方ニ沿フテ走ル所
ノ水ハ「アフタル、ブール」ニ於テ一大孔ニ邂逅ス此孔
ハ他ノ底部ノ如ク少シモ水ニ抗抵カヲ捧ケサレハ

ステルンヲシテポーヨリモ多ク風下ノ方へ偏セシム之レヲ防カシニハポーヲ風ヨリ離ス為メニヘルムヲ風上ノ方ニ多ク取ラサルヲ得ス(第二百五十圖乙)

又茲ニ別ニ一理アリ船ヲ回轉スル所以ノモノハ管ニ「ラダ」ヲ打ツ所ノ水ノミナラス船底ニ沿フテ後部ニ流レ來ル水「ラダ」ニ遮止セラレテ亦其後背ノ水ヲ遮止ス後背ノ水ハ遮止セラレタルニ依リテ「ラダ」ヨリモ餘程前ノ方へ反流シテ船ノ後部ニ壓迫ス是レ回轉ヲ助クル所以ニシテ通常セイリング、シップニ於テ然ルモノナリ

然レ氏「スクル」シップニ於テハ其短キ「ステル」ポストノ故ヲ以テ此反流ノ力ハ全ク虚無ニ属セリ右ノ理アルヲ以テ汽力ヲ用フル「ナク」ロング、スクル、シップヲ上手廻ハシスルハ頗ル難事ニシテ其好結果ヲ得ヘキ機會ハ唯「イン」スルヲ掛ケテ「アフ」タル、セイ「ル」ニ充分風ヲ入レ成ル丈ケ多ク航カヲ保テ船ヲ廻ハスニアル而已

スクル、シップハセイリングシップヨリ上手廻ハシヲナシ難キノ理
上手廻ハシノ「セイ」リング、シップハ其航カヲ保ツ間

タハ船底ノ風上ノ方ニ沿フテ来ル水ヲダダ打チテ
 船ノ回轉ヲ助クルモノナリ然レ氏「スクル」ト、エ、パ
 各「ル」ヲ備ヘタル船ニ於テハ此水絶ヘス風下ノ方
 ヨリ「スクル」ト、ホ「ル」ヲ通り来ル水流ニ會合ス此水
 流ハ船ノ偏流及ヒ「ステル」ノ偏行ニ依テ起ルモノ
 ナルカ故ニ夫ノ水ハ此水流ニ誘ハレテ風上ノ方ヘ
 遣ラレ「キール」ノ線ヨリ若干ノ角度ニ於テ離レ「ダ
 ニ」觸ル、モノ少ナシ
 ラダ「ラ」シテ最モ有用ノ具タラシムルニハ水流ノ方
 向「スクル」ト、ホ「ル」ニ流通スルニ由テ變換セサル前
 ニ水ヲシテ直チニ「ラダ」ニ觸レシメス「ハ」アルヘカ

ラス

バランスド、ラダ

前ノ要求ニ應センカ為メ近代數多ノ「スクル」ト、シ「プ」
 ニ於テ「バ」ラン「ス」ド、ラ「ダ」ト称スルモノヲ用フ其製
 通常ノモノ、如ク「ステル」ト、ホ「ス」トニ懸ラスシテ「キ
 ール」ノ延尾ニ坐シ其前端ヨリ略三分一ノ處ニ於テ
 中軸ヲ旋轉スヘクナスモノニシテ「ヘルム」ヲ左右ニ
 偏スルキ其中軸前部ノ水壓ハ後部ノ水壓ニ抗抵ス
 ルカ故ニ「ヘルム」ヲ取ルニ於テ大ヒニ其勞力ヲ省キ
 且ツ汽走ニ於テ其効績最モ満足セルモノナリ此「ラ

ガルハ前後ノ部一躰ニシテ之レヲ「シングル、バラン
スド、ラッダルト」云フ「第二百五十二圖甲」
右ノ「ラッダルト」ハ汽走中其面積至大ナルヲ以テ利益ア
リト雖モ帆走ノキハ其面積至少ナラン「ト」優
レリトス故ニ此兩目的ヲ達センカ為メ又一製ヲ發
見セリ之レヲ「コムパオンド、バランスド、ラッダルト」云
フ其製「ラッダルト」ノ前後部互ヒニ蝶鉸ノ如ク連接シ汽
走中ハ兩部ヲ固鎖シテ「シングル、ラッダルト」ノ功用ヲナ
シ帆走中ハ「ラッダルト」ノ前部「キール」ノ筋ニ固鎖シテ孔
隙ヲ填充シ以テ通常「スクルー、シップ」ノ「ラダ、ポスト」ノ
如クナシ唯「ラダ」ノ後部ノミヲ用ヒテ船ヲ回轉スル

モノナリ「第二百五十二圖乙」「第二百五十二圖丙」

「ラ」ザル、ブレース「ハ」リ、ブレース
ヨリモ張リカヲ多ク受クルノ理

「ヤード」若シ「マースト」ノ中心ニ於テ回轉セハ「セイル」
ノ「ウエーザル、サイド」モ「リ」、「サイド」モ互ヒニ兼合ヒ「ヤ
ード」ハ風ノ模様ニ依テ之レヲ安排セシ所ノ角度ニ
靜止スヘシ然レモ「ヤード」ヲ「マースト」ノ中心ヨリ遠
サケ之レヲシテ多少ノ距離ニ於テ回轉セシムルヤ
否ヤ縱令ヒ風ノ發生セル勢力ハ其打ツ所ノ平面ニ
直角ナリト雖モ亦夕風ハ「マースト」ヨリ直線ニ於テ

前ノ方へ全「セイル」ヲ吹放サントスルノカヲ發スルナリ
 又「ヤード」ト「マース」トノ中心風ノ方向ト一直線ニ在レハ「セイル」ノ兩「サイド」互ヒニ兼合フモノナリ
 然レモ「ヤード」此位置ニ在ラサル片ハ（風ノ正後ナル片ノ外ハ此位置ハ絶エテナキモノナリ）「ウエー」ガ「ブレ」スニ及フ張リカハ大ニ増スモノニテ此張リカハ「ヤード」ト「マース」トノ距離ノ増スニ從テ増スモノナリ是故ニ「ウエー」ガ「ブレ」スノ張リカヲ減センカ為メニハ「ヤード」ヲ「マース」トニ近カク引寄せスハアルヘカラス

強ク吹ク片ハ「ウエー」ガ「ブレ」スヲ緩ムルニ能ク注意スヘシ

ボン、子、ウインドニ乗ル片「アップル」、ヤードヲ「ローア」、ヤードヨリモ多ク入廻スルノ理

船ノ「ローア」、ヤードハ縦線（子フル、エインド、ト凡ソ二十度ノ角ニ上廻セラル、ニ「トップ」、セイルノ「ウエー」ガ「ブレ」スハ「セイル」ヨリモ多分ノ彎曲アリ是故ニ「セイル」ノ平面ヲシテ縦線ト同シ角度ニ在ラシメシニハ

大「セイル」ノ「ヤード」ヲハ小「セイル」ノ「ヤード」ヨリモ銳
 キ角度ニ上廻セサルヘカラス
 又「セイル」ノ上部ハ「ヤード」ニ縛着セラル、ニ依テ下
 半部ノ如ク大ナル彎曲ヲ有タス是故ニ「アップル、セイ
 ル」ノ「アップル、ヤード」ハ「アップル、セイル」ノ「ローア、ヤード」
 ヨリモ多ク入廻セラル、ナリ

風ノ強弱

風ノ方向名稱ハ第一教七項羅針ノ條ニ説明セリ故
 ニ今左ニ風ノ強弱ニ應セル各種ノ名稱ヲ揭示ス
 0 平穩「カーム」

- 1 至輕風「ライト、エイヤ」 方ニ明白ナリ
- 2 輕風「ライト、ブリーズ」 一節ヨリ二節迄ノ航
力
- 3 軟風「ゼントル、ブリーズ」 二節ヨリ四節迄ノ
航カ
- 4 和風「モデレート、ブリーズ」 四節ヨリ六節迄
ノ航カ
- 5 疾風「フレズ、ブリーズ」 「ローヤル」ヲ掛得ルキ、
- 6 雄風「ストロング、ブリーズ」 一段縮及ヒ「トップ
ゲルンスル」
- 7 強風「モデレート、ゲール」 二段縮「トップスル」

8 疾強風「フレシ、ゲール」 三段縮及ヒ縮「コー
ス」

9 大強風「ストロング、ゲール」 全縮

10 全強風「オール、ゲール」 全縮「メイン、トップスル」

11 暴風「ストルム」 「ストルム、ステール」

12 颶風「ホリケン」 「セイル」至少

上頭ノ數符ハ日誌ニ記載スル為メ略用ス
ルモノナリ

右ニ記載スル所ノ風勢強弱ノ名稱ハ夕トヘハ「ロー
ヤル」ヲ掛得ルキハ疾風「トップスル」ヲ全縮スヘキ片ハ
大強風ト唱フルカ如シト雖モ又實驗練磨ニ由テ人

人各自ノ考按ニ異同アルノミナラス尚且ツ海洋ノ
形勢運船ノ難易索帆具ノ強弱殊ニ船跡ノ大小足力
ニ應シ裝帆ニ係リ同時異船ニ於テ考按ヲ異ニスル
了アリ然レハ同時同風ニ同一ノ名稱ヲ附セスシテ
甲ハ「リース、トップスル」及ヒ「トップゲルン」スルヲ掛ケテ
雄風トスレバ乙ハ尚「ローヤル」ヲ掛得テ疾風トスル
了アリ故ニ此名稱ハ唯各人ノ考按ト偶發ノ原由ニ
係レル比較ノ度量ト見做シ尚實驗ヲ以テ其真正ヲ
求ムヘキモノトス

拔錨出帆諸法

総説

潮泊ナラサルナラサル風潮流ノ勢ニ從テ泊スルハ風下ノ「エンコ
ル」ヲ初メニ卷揚クヘシ
若シニ「ゲイブル」ク「ロース」ニナリテ「リ」ケイブル上
ニナリタルキハ先ツ之レヲ「ウーザル」ケイブルノ下
ニ替ハシ落スヘシ否ラサレハ「エンコル」ノ揚カルキ
「空イゾル」ケイブルヲ鉤スヘシ「リ」ケイブルノ下ニ
アルキハ此憂ヒナシ
風上ノ「エンコル」ヲ最初ニ卷揚ケナハ其起ルヤ否ヤ
船ハ風下ノ「エンコル」ヲ過キテ下手ノ方ニ下カリ恐
ラクハ「掬オケル錨モシユル」トナリテ風下ノ「エンコル」ヲ無能ニナス

ヘシ左ナク「ゲイブル」ニ劇動ヲ起ス「必然タリ
風上ノ「エンコル」ヲ後チニ卷揚クレハ船ヲシテ其風
下ノ「エンコル」ヲ以テ出叢スルヨリモ遠ク風上ノ方
へ出叢スル「得セシム」
拔錨スルニハ「リ」ケイブルヲ卷ク支度ヲナシ「ボム
プ」ヲ仕掛ケ「蛇管ホース」ヲ「スペーヤ」ホーズ、ホールヨリ出タ
シ「ニッパル」ヲ掛ケケ「プステン」ヲ卷キ「ゲイブル」ヲ「ビット」
ヨリ脱ツシ「ウーザル」ケイブルヲ繰伸へ成ルタケ「リ
」ケイブルニ張リヲ持タセサル様ニシテ之レヲ卷
揚ケ了リ次ニ「ウーザル」ケイブルヲ卷ク支度ヲナシ
時宜ニ應シテ「ロング」ステール「或ハ「シルト」ステール」マテ

卷入ルヘシ多キ者ニシテ「ハ」シ「ルト」ステ「テ」ヨリ斜度
海底ヨリ「ボ」マテ「殆」ント直立シタル形ヲ云フ往古
ハ「ケ」ブルノ勾配「ヲ」ル、ト「ッ」プ「マ」ースト、ステ「ト」同
シ角度ニナリタル
ヲ称セリト云フ
ト「ッ」プ、ゲルン及ヒ「ロ」イヤル、ヤ「ド」ヲ横架スヘシ
碇泊中突出シタル「ス」ウ「ン」ギン、ブ「ム」ハ之レヲ納メ
「セ」イル、カバルヲ外ツシ「ス」パンカル、ブ「ム」ヲ舉揚ス
ヘシ
スタンスル、ギ「ヤ」ヲ通スヘシ
發航ノ前注目スヘキ要件略左ノ如シ
食料飲水等其他必需ノ物品ヲ點檢シ欠乏ナル片ハ
之レヲ補充シ各自其貯所ニ蓄ヘテ用ニ臨ミ取出シ

易カラシムヘシ
ブ「ム」スノ豫備諸圓材及ヒ「エ」ン「コ」ル等其他船ノ動
搖ノ為メニ騷轉スヘキ者ハ凡ヘテ之レヲ固縛スヘ
シ砲臺ノ煩砲等モ亦之レニ同シ
ラン「チ」等大端船ヲブ「ム」スニ納ムヘシ
ライ「フ」、ボ「ト」ヲ準備シ「ライ」フ、ボ「イ」及ヒ「ナ」イト、ボ
「イ」ヲ點檢スヘシ
ラ「グ」ヲ點檢シ「ホ」ウ「ール」、ロ「ープ」等ノ屬具能ク其用ニ
適スルヤ否ニ注意シ又「エ」ン「コ」ル、ギ「ヤ」ヲ點檢スヘ
シ
スタ「ン」ジン及ヒ「ラン」子「ン」、リ「ッ」ギンヲ點檢スヘシ

リフト及ヒブレースノスケール、マークヲ檢點スヘシ
 セイルヲ取附ケ且ツスペーヤ、セイルヲ點檢スヘシ
 リッギン及ヒマースト、ヤードノ摩擦アル處ニハ左
 フイン、ギーヤヲ當テ、之レヲ防クヘシ
 ハッチ、ウイノター、パーリンヲ檢シ又スカットルヲ密閉
 スヘシ
 拔錨ノ時「ケーブル」ヲ卷キ始メサル前船ノ運用ニ就
 キ考察スヘキ要件略左ノ如シ
 天候ノ模様
 風ノ方向及ヒ力

潮流ト風ノ順逆

海底ノ土質及ヒ「ケーブル」ヲ短縮スルキ「エンコル」
 ノ引ケルト否
 他船及ヒ暗礁等ノ障害ヲ避ケン為メノ進退方法
 オン、子、ウインド或ハ「ビネール、ゼウインド」ニ出帆シ得
 ルカ又「スプリング」ノ補助等ヲ要スルカ
 廻頭ニ方リ「ケーブル」風上若クハ風下ニアルカ
 右七件ノ如キハ拔錨廻頭ニ於テ多少船ノ運用ニ關
 係スル所ニシテ最モ肝要ナル者トス
 拔錨ノ前雙錨ヲ單錨ニナシタル後ハ必ス一舷方ノ
 「エンコル」及ヒ「ケーブル」ヲ用意シテ投錨ニ差支ナカ

ラシメ以テ廻頭ニ臨ミ不慮ノ災ニ備フヘシ
若シ深キ所ニ碇泊セルキハ時アツテ「ケーブル」ヲ卷
揚ル間夕「踏」スル「ア」リ
出帆ノキ陸岸ヨリ風ヲ受ケ暗礁淺瀬等ノ障碍ナク
直チニ「オン」子「ウインド」或ハ「ビ」子「ール」ゼ「ウインド」ニ發出
シ得ルカ如ク船ノ為メ都合好キ風ヲ「左」ヤ「ウインド」
ト云フ而メ之レニ反シ船ノ為メニ都合好カラサル
風ヲ「牙」ウル「ウインド」ト云フ
エン「コ」ル「地」ヲ離ル、一能ハスシテ暗礁等ニ鉤セル
ヤノ疑念アルキハ速カニ「セイル」ヲ絞括シ他ノ「エン
コ」ル「ヲ」投下シ而メ後揚錨ノ手段ニ及フヘシ

出帆ノキ廻頭スル法

船一錨ヲ以テ風或ハ潮ニ泊スルキ出帆センカ為メ
其船首ヲ風ヨリ右舷或ハ左舷ノ方ニ振向クル「ヲ」
廻頭ト云フ
雙錨ノキハ先ツ之レヲ單錨ニナシ「ライ」ジン「ゲ」ーブ
ル「ヲ」卷キテ「近」錨「ス」ルト「ト」ナシ「セイル」ヲ解キ「ヘッド」セ
イル「ヲ」用意シ而メ風強カラサレハ「トップ」スル「トップ」ゲ
ル「ス」ル「及」ヒ「ローヤル」ヲ掛ケ「アフタル」ヤ「ード」ヲ後
ニ風ヲ受クヘキ「テッキ」ニ前廻シ「ヘッド」ヤ「ード」ヲ反廻シ
再ヒ「ケーブル」ヲ卷キテ之レヲ急ニシ「已」ニ「エン」コル

直垂シテ立^{アツク}錨^ドトナリ次ニ地ヲ離レテ起^キ錨^ド
 エンコル^トトナリテ船後退廻頭ヲ始ムレハヘルムヲ
 逆ニ取りジブヲ揚ケテ廻頭ヲ促シ已ニエンコル水
 面上ニ顯ハレテ出^{イカリ}錨^ドサイトトナルニ至テ卷方
 ヲ止メ已ニ充分廻頭シテアフタルヤードニ風ヲ入
 ルニ至リテヘッド、ヤード^{ブリス}ヲ周廻シヘルムヲ正中ニ
 直シテセイイルヲオンチ、ウインドニ据エエンコルヲカ
 ト^ト及ヒ^トヲシニテ其位置ニ納メ而ノ後^トス^ト及ヒ^トス
 パシカルヲ掛クヘシ
 通常充分ノ餘地アルキハライジン、ケーブルナキ船
 方ニ廻頭スルヲ例トス其故ハエンコル^ル卷方及ヒ納

方ニ於テ最モ便利ナル而已ナラス亦夕船底ノ銅ヲ
 摩損スルノ患ヒナシ
 廻頭ノ片^クエンコル^ル地ヲ離ル、片ハ船後退スルカ故
 ニ港内狹隘ニシテ且ツ風都合好カラサル片暗礁淺
 瀬泊船等アル片ハ其危険中最近キ者ニ向テ廻頭ス
 ヘシ
 ケーブルヲ短縮シテ込錨トナスニハ装帆ノ為メニ
 錨引ケサル程ニナスヘシ

オン子ウインドニ出帆スル法(第二百

五十二圖

ニッパル^ル及ヒ^メスセンゼル^ルヲ出シテ之^レヲ仕掛ケケ
プステン、バー^ヲ挿シテ^スウ^フタル^ヲ掛ケ^カト^ト及ヒ
「^フイ^シ」^ヲ通シ^ホム^プヲ仕掛ケ^巳ニ用意整^フタル^キ左
ノ令^ヲ下^タス

總員上へー

此令ニテ水兵長屬吹笛シテ總員ヲ甲板上ニ集會セ
シム

エンコル^ヲ揚ケ^カー

此豫令ニテ水兵長屬吹笛シテ之^レヲ總員ニ傳令シ
各自其^部署^ニ就^カシム
ケプステン^ニ附^ケー

此令ニテケプステン^ニ就^キ卷^キ方^ノ用意^ヲナス
ケーブル^ヲ縮^メー

此令ニテケーブル^ヲ縮^方用意^ノ為^メニッパル^ヲ掛^ケケ
プステン^ヲ逆^卷キ^シテ^ケー^{ブル}ヲ^ピット^ヨリ^外ツ^シ
スリッ^プヲ^脱シ^{タル}ノ^報ヲ^得テ^次ノ^令ニ^移ル

卷^キ方^始ノ^ー

此令ニテケプステン^ヲ卷^キケーブル^ヲ短縮ス^巳ニ
前部士官ヨリ^近錨^ノ報^ヲ得^{タル}片

卷^キ方^止メ^ー

此令ニテケプステン^ノ廻^轉ヲ^止メ^コム^プレ^スソ^ル
ヲ^縮メ^スリッ^プヲ^掛ケ^ケプ^ステ^ン、^バー^ヲ抜^キ去^リ而

ノ「セイル」解掛方ノ令ニ移ル其令ハ之但シ「トップスル」
 追掛ケ「コース」ハ解キタル儘ニテ動索ハ引締メ置キ
 廻頭ノ業ニカ、ルヘシ但シ風強キハ「アップル、セイ」
ルヲ解カス「トップスル」ハ時宜
 ニ應シ某段ノ「リ」
 フ「ヲ短縮スヘシ」
 廻頭スルニハ「アフタル、ヤード」ハ後ニ風ヲ受クヘキ
 「テッキ」ニ前廻シ即チ「スターボード、テッキ」ナレハ右舷
 ニ旋廻シ「ポート、テッキ」ナレハ左舷ニ旋廻シ而シテ「ヘッド、
 ヤード」ハ反對ニ旋廻スヘシ今「ポート、テッキ」ニ出帆セ
 ント欲シ右舷ニ廻頭セン「ヲ要スル」ハ左ノ如ク
 令ス

左舷「ヘッド、ブレリース」右舷「アフタル、ブレリース」採レ

リフト、ツラス「繰レ」

張合セ

引ケ

此令ニテ「ブレリース」ヲ採リ「リフト、ツラス」ヲ繰弛メテ
 「ブレリース」ヲ引キ「ヤード」ヲ前後反對ニ旋廻シ「第二
 五十二圖甲」左ノ令ニ移ル

ケプステン「ニ附ケ」

卷ケ

此令ニテ再ヒ「ケプステン」ニ附キ「ケーブル」ヲ卷キ「ゲ
 ーブル」直垂ニナリタル「前部士官ヨリ」立「錨」ノ報ヲ

得テ「ジブ」ハリヤードヲ採ラシメ「エン」コル「地」ヲ離レ
 タル片「起錨」ノ報ヲ得テ左ノ令ニ移ル
 退ヲ始ムルカ故ニ「注意」ニ測鉛手ヲ置テ之レヲ報
 セシム又能ク「注意」ニシテ船後ヲ始ム
 ハ「注意」スルマシムルニシテ船後ヲ始ム
 ニ「注意」スルマシムルニシテ船後ヲ始ム
 頭ニ「注意」スルマシムルニシテ船後ヲ始ム
 シカハ「注意」スルマシムルニシテ船後ヲ始ム
 ジブ「揚ケ」

此令ニテ「ジブ」ヲ引揚ケ「エン」ザル、シートヲ後引スヘ
 シ「エン」コル「水面」上ニ出テ「出錨」正錨「エン」コル
 或ハ「揚ケ」ノ報ヲ得テ左ノ令ニ移ル
 卷キ方止メ
 已ニ「スリップ」ヲ掛ケタル片ハ

ケプステン「戻セ」
 此令ニテ「ケプ」ステン「巻ク」ヲ止メテ之レヲ巻キ
 戻シ「エン」コル「重サ」ヲ「スリップ」ニ荷ハスヘシ
 右舷「ヘッド」ブレース「採レ」
 此令ニテ「ヘッド」ブレースヲ採リ已ニ「アフタル」セイ
 風ヲ入ル、片時宜ニ由リ「ヘルム」ヲ正中ニナシ「第二
 百五十二圖」左ノ令ニ移ル
 「ヘッド」ヤード「廻セ」
 此令ニテ「ヘッド」ヤードヲ「周廻」シテ「セイ」ルニ風ヲ入ル
 、ヘシ「第二」百五十二圖「但シ」此際船首若シ過度ニ
 風下ニ落ル片ハ「ヘッド」ヤードヲ一頓ニ鋭ク周廻スヘ

カラス而メ「ジブ、シート」ヲ弛ムヘシ斯クノ如クシテ
 船首次第ニ風ニ溯ルニ至リ再ヒ「ジブ、シート」ヲ張り
 「ベッド、ヤード」ヲ上廻シテ「アフタル、ヤード」ニ釣合セ「ク
 ト」及ヒ「フィ」ヲ以テ「エンコル」ヲ其位置ニ納メ而ノ後
 風ニ應シ「ブー」スル「メイン」スル「及ヒ」スパンカルヲ掛
 クヘシ

廻頭スルニ方リ右ニ述フルカ如ク「オン子、ウインド」ニ
 出帆スルキハ「アフタル、ヤード」ヲ後ニ据ウヘキ「テッキ
 ニ前廻スト雖モ若シ「ブー」トル、ウインド」ニ出帆スルキ
 ハ殆ント直方ニ前廻シ「ブー」トル、ウインド」ニ出帆ス
 ルキハ直方ニナシ置クヘシ「第二百五十三圖」但シ何

レモ港内廣クシテ後退スルモ危険ナキ場合ナリ

出帆ノキ装帆ノ三法

第一法「トップスル」ヲ放チ「アップル、セイル」ハ固持シ置キ
 「トップスル、シート」ヲ引附ケ「トップスル、ヤード」ヲ引揚ケ
 次ニ「アップル、セイル」ヲ放チ「トップゲルン、シート」ヲ引附
 ケ其「ヤード」ヲ引揚ケ直チニ「ローヤル、シート」引附ケ
 其「ヤード」ヲ引揚ルナリ
 第二法三帆ヲ一齊ニ放チ一齊ニ「シート」ヲ引附ケ「ハ
 リヤード」ヲ引クナリ故ニ「トップスル、ヤード」充分高ク
 揚リタルキハ己ニ「トップゲルン、シート」モ引附ケ了リ

「トップゲルン、ヤード」充分高く揚リタルキハ「ロイヤル、シート」モ引附ケ了ル者トス此法ヲ以テスルキハ業作急速ナラシメントスルノ勢ニ乗シ「トップゲルン、シート」ヲ切り或ハ「トップスル、ヤード」ヲ折ルノ恐レアリ宜シク注意スヘシ

第三法三帆ヲ一齊ニ放チ先ツ「トップスル、シート」ヲ引附ケ其「ヤード」ヲ引揚ケ次ニ「トップゲルン、シート」ヲ引附ケ其「ヤード」ヲ引揚ケ次ニ「ロイヤル」ト引續キ急速ニ之レヲ掛クヘシ

通常第一法ヲ用フレト時宜ニ由リ他ノ二法ヲモ用フルナリ

船尾ニ泊船アルキ出帆スル法第二
百五十四圖

陸岸ニ向テ泊シ出帆セント欲スルニ船尾ニ方リテ一船碇泊セリ然レ其船「ヤード」ヲ周廻シテ風ヲ入レ前進スル為メ充分替ルヘキ距離タトヘハ船長二三倍ニアルキハ通常ノ法ニ由テ前後反廻シ「アフタル、ヤード」ヲ善ク「オン子、ウインド」ニ据エ已ニ廻頭シテ「アフタル、セイル」ニ風ヲ入レカ、ルキ「フォール、ヤード」ヲ周廻スヘシ但シ餘リ風下ニ落サス且ツ航カヲ増サル為メ直チニ之レヲ「オン子、ウインド」ニ据ウ

ヘカラス同時ニ「ジブ」及ヒ「スパンカル」ヲ掛クヘシ已ニ船充分風下ニ落チタルキハ「ジブ」シート「ヲ弛メ」船風上ニ溯リカ、ルキ「フォール」ヤ「ド」ヲ「オン」子、ウインドニ据エ「ジブ」シート「ヲ後引シ」セイル「ヲ増掛シテ」航カヲ増加シ而シテ他船ヲ替リ行クヘシ

垂錨ニテ出帆スル法

船尾ノ方ニ當リ左右ニ泊船アリ通常ノ如ク廻頭セシニハ替ハラサルノ恐アルキハ真直ニ後退シテ兩船ノ間ヲ通過セシカ為メ「ヤイル」ヲ直方ニナシ「ヘルム」ヲ正中ニナシ置キ「エニコル」ヲ卷キテ地ヲ抜キ

廻頭スヘキ餘地ヲ得ル迄地ヲ摺リ曳キ船ヲシテ後方ニ遷流セシム但シ其間「タケ」ブルニ「スリップ」ヲ掛ケ「コム」プレス「ソル」ヲ弛メ置キ若シ運用不良ヲ認ル片ハ直チニ投錨スヘキ用意スヘシ已ニ兩船ヲ替リタル片ハ「エンユル」ヲ卷キ揚ケ「ヘルム」ヲ廻頭セント欲スル方ニ取リ「ジブ」ヲ引揚ケ其他通常ノ如ク運用スヘシ此法ヲ名ツケテ垂錨出帆法ト云フ

後退出帆法

前條ノ場合ニ於テ又左法ノ如キ運用ヲ施ス「ア」アリ船ヲ少シモ傾カヌ様ニナスヘシ若シ何レノ向ヘカ

傾ク片ハ其傾キタル方ノ「クォートル」ヘハ水ノ壓力強
ケレハ之レヲ押シテ風ノ方ヘ寄ラシムヘシ「ラダ」ヲ
用フヘキ好機會ハナキニ依テ唯々「トップスル」ヲ用ヒ
「ヤード」ヲ直方ニナシ置キ左右ノ「ヘッド、ブレース」ニ配
貞シ「ヘルム」ヲ正中ニ固定シ儲船ノ後下カリシ始ム
ル片「ヘッド、ヤード」ヲ以テ緩急運用シ極メテ之レヲ注
意シ船首右舷ニ廻ハラントセハ「ヤード」ヲ少シ「ホー
ト、テッキ」ニ上廻シ左舷ニ廻ハラントセハ「スターボ
ルド、テッキ」ニ上廻シツ、船ヲ真直ニ制御シ後退シテ
兩船ヲ替ハス「前」ニ同シ此法ヲ名ツケテ「メーキ、ス
テルンボールド」ト云フ

他船ニ舫索ヲ取りテ出帆スル法
後方ニ當リテ數艘ノ泊船アリ之レヲ替リ又其間夕
ヲ通過セントスルニ衝突ノ恐レアル片若シ本船ヨ
リ前面ニ方リ適宜ノ距離ニ他ノ泊船アル片ハ「ホー
セル」ヲ運搬シテ之レニ舫モヤヒ以テ本船ヲ引出シ出帆
スル「クォートル」ヲ得斯クノ如ク「ホーセル」ヲ前船ニ固結シテ
本船ノ「クォートル」ニ取ル片ハ「スプリング」ヲ以テ出帆
スル如ク後ニ後退スル「クォートル」ナクシテ廻頭スル「クォートル」ヲ得
ヘシ
右ノ如ク舫フヘキ泊船ナキ片ハ「クォートル」ヲ用

アルノ法アリ即チ次ノ如シ

風船首ヨリ来リ船尾ノ方ニ岩礁淺瀬等アリ此時「ク」ヲ用ヒ「オン子」ウ「ンド」ニ於テ「スターボード」ヲ「キ」ニ出帆スル法〔第二百五十五圖〕

此目的ハ「エンコル」地ヲ離レタル後風潮ノ為メニ遷流シ或ハ廻頭ノ後チ尚風下ニ落チテ障害ヲ蒙ルナク船ヲシテ安全ニ出帆セシムルニアリケ「ブル」ノ量多キハ之レヲ巻キテ安全ニ碇止スル程ニナシ而シテ「ク」エ「ンコル」ヲ取附ケタル「ホ」

セルヲ右舷ノ「ボ」ヨリ前方ニ運搬シテ投下シ能ク之レヲ緊張シ「トップゲル」及ヒ「トップスル」ヲ解キ「ク」ト「ル」ガスケ「ット」ノミヲ放タス「セイム」ヲ「ヤード」ニ固括シ置キ之レヲ引揚ケ銃ク上廻シテ「スターボード」ニ固括セキニ据エ「ジブ」及ヒ「スパンカル」ヲモ解キテ掛方ノ用意ヲナシ「ケプステ」ヲ急巻シテ「エンコル」ヲ揚ケ「ケ」ブル船内ニ入ル、ニ從テ「ボ」セルノ弛ミヲ繰リ込ミ已ニ「エンコル」地ヲ離ル、片「ボ」セルヲ引キテ船ヲ前方ニ移轉セシム此間夕「ヘルム」ヲ右舷ニ取リテ船首ヲ左舷ニ向ケ「トップスル」シ「ト」ヲ採リ已ニ「ク」エ「ンコル」近錨トナリ或ハ地ヲ離ル、ヤ「否」ト

プスルノ「シ」ト「ヲ」引附ケ「ジ」ブ「ヲ」引揚ケ「ス」パン「カ」ル
 「ヲ」引出シ而メ後「ク」ヂ「エ」ン「コ」ル「ヲ」引揚クヘシ
 已ニ船首風下ニ落テ「ト」ツ「プ」スルニ風ヲ入レタル「キ」ジ
 ブ「シ」ト「ヲ」左舷ニ取直シ「ト」ツ「ブ」ゲル「レ」スル「ヲ」掛ケ「ハ
 ル」ム「ヲ」正中ニナスヘシ若シ「ク」ヂ「殆」ント直垂ニナラ
 サル前ニ起キ引ケル「キ」ハ直チニ装帆シ同時ニ「ホ」
 セル「ヲ」引込ムヘシ
 陸風或ハ潮流ノ都合又航路狹隘淺瀬等碇泊場ノ形
 勢ニ由リ錨處ヲ改轉セサレハ出帆ノ好機會ヲ得サ
 ル「キ」ハ出帆ノ前日等ニ「ク」ヂ「エ」ン「コ」ル「ヲ」以テ本船ヲ
 沖合ニ引出ス「コ」アリ

天候不良ナル「キ」風下ノ近岸ヨリ出帆スル法

港内ニ於テ天候良好ニシテ沖風ニ泊スル「キ」ハ船尾
 ニ泊船アル「キ」ノ如ク尋常ノ法ニテ出帆スル「コ」ヲ得
 ルト雖モ若シ天候不良ニシテ風下ノ近岸ニ泊シ且
 ツ其錨所甚ク深キ「キ」ハ通常ノ法ニテ出帆スル「コ」能
 ハス其故ハ「エ」ン「コ」ル「ボ」
 「ト」ニ揚ル間夕航進ノ勢少ナ
 ク風上ニ溯リ或ハ「ハ」ル「ム」意ノ如クナラス次第ニ陸
 岸ニ落來リテ之レニ漂着スルノ恐レアレハナリ
 右ノ如キ場合ニ臨ミ出帆スヘキ「キ」ハ「エ」ン「コ」ル「レ」及ヒ

ゲイブルヲ捨テサルヲ得ス故ニ此時ニ方テハ「ゲイブル」ヲ巻キテ短縮スル「ナク」ライジング、ホース、ホイルノ内ニテ「ジャックル」ヲ解脱スルノ用意ヲナシ必
 要ノ「セイル」ヲ掛ケ廻頭セント欲スル舷方ニ從ヒ「ヤード」ヲ反廻シ「ヘルム」ヲ風下ニ取り已ニ用意整フタル
 片「ジャックル」ヲ解脱シ「スリップ」ヲ外ツシテ「ゲイブル」ヲ遣放シ「ボーイ」ヲ投下シテ後ニ探鈎ノ為メニス已
 ニ風下ニ落チカ、ルヤ直チニ「ジブ」ヲ引揚ケ「アフタル」セイルニ風ヲ入レカ、ルヤ速カニ「ブール」ヤ「ド
 ヲ」周廻シテ「オン」子、ウ「ンド」ニ据エ「セイル」ヲ増掛シテ
 陸岸ヲ離ル、「」ヲ勉ムヘシ

廣闊ナル錨處ニ於ケルモ波濤烈高ニシテ「ゲイブル」ヲ巻キ難キ片ハ已ムヲ得ス之レヲ解脱スル「」アリ

ロープ、ヤーン「」ヲ以テ「トップスル」ヲ結留メ出帆スル法

船近岸ニ泊セサレ氏風烈シク波甚タ高キ片ハ通常廻頭スル如ク近錨ノ片「トップスル」ヲ掛レハ之カ為メニ「ゲイブル」破斷シ或ハ錨引ケルノ恐アリ此ノ如キ場合ニ於テハ「トップスル」ヤ「ド」ヲ引舉ケ且ツ「ガス」ト「」ヲ解キテ假リニ「コーブ」ヤ「ン」ヲ以テ結留メ置キ後ニ之ヲ切テ「セイル」ヲ落下セシメ且ツ「」ト「」ヲ引

クノミニテ「セイル」掛クヘキ用意ヲナシ而メ通常「セイ
 ル」ヲ掛ケタル「ピ」ノ如ク廻スヘキ舷方ニ從テ「ヤード」
 ヲ反廻シ次ニ「エン」コルヲ揚ケ已ニ「エン」コル地ヲ離
 レ船廻頭シカ、ル「ギ」ジブヲ掛ケ「スパ」ンカルヲ引出
 シ船ヲ所望ノ針路ニ向ケ已ニ「エン」コル揚リタル「ピ」
 「ヤード」ヲ順廻シ而メ後「ロープ」ヤールンヲ切り「シート」
 ヲ引張ルヘシ高船ニテハ多ク此法
 以テ出帆スルナリ

風下ニ濱岸アル所ヨリ「スプリ」ン
 グヲ用ヒ「エン」コルヲ捨テ、出帆スル
 法第二百五十六圖

風下ノ濱岸ニ近接シテ泊シ抜錨セント欲スルニ風
 強キニ過キ後退スルニ餘地ナク通常ノ法ヲ以テス
 ル「ジ」能ハス此時ニ方ツテ「ハ」スプリングヲ以テ廻頭
 シ「エン」コルヲ捨テ、出帆セサルヲ得ス
 譬ヘハ「スター」ボールド、エンコルヲ以テ泊シ右舷ニ
 濱岸アリテ是非トモ左舷ニ廻頭スルヨリ外之レナ
 キ「ハ」時宜ニ應シ某段ノ「リ」フヲ短縮シテ「セイル」
 ヲ括リ「ガス」多ト「ハ」バン「ト」ノ外解キ假リニ「ロープ」ヤ
 ールニテ結雷メ置キ成ルヘク速カニ裝帆シ得ヘキ
 用意ヲナシ而メ「トップ」スルハ掛方ヲ爲メ充分高ク引
 揚ケ「ヤード」ヲ「スター」ボールド、セキニ上廻シ備「スト」

リーム、ケーブルヲ取り其一端ヲ右舷ノ「クォートル」ヨ
 リ舷外ヲ廻ハシテ之レヲ「ライジン」、ケーブルニ「ツト」、
 ハーフ、ヒッチ及ヒ「シージン」ヲ以テ固結シテ「スプリン
 グ」トナシ善ク緊張シテ之レヲ固定シ「ライジン」、ホー
 ズ、ホールヨリ「ボイイ」、ロープノ一端ヲ引込ミ之レヲ
 「ビット」ノ前ニテ「ライジン」、ケーブルニ固結シ他ノ一端
 ニハ「ボイイ」ヲ取附ケ索具ニ障ラヌ様ニ「ホームキン」ニ
 懸ケ置クヘシ已ニ用意整フタルキ「ジブ」、シートヲ右
 舷ニ後引シ「ケーブル」ヲ繰伸ヘ「ヘルム」ヲ右舷ニ取り
 「ジブ」ヲ引揚ケ已ニ「ジブ」ニ風ヲ入レ「スプリング」ニ由
 リテ左舷ニ廻頭シカ、ラハ次第ニ「ケーブル」ヲ繰伸

ヘ已ニ船首程好ク振レ廻ハリテ風殆ント「エビーム」
 ニ至ラハ「ビット」ノ前ニテ「スリップ」ヲ掛ケ「ケーブル」ヲ解
 脱シ速カニ「トップ」スルヲ垂下シ「シート」ヲ引附ケ「ボイ
 イ」ヲ投下シ「スリップ」ヲ解脱ス此時傷害ヲ蒙ラサル為
 メ「ケーブル」ノ「エンド」ニ近寄ラサル様ニ警戒スヘシ
 已ニ船前進シテ適路ヲ得ルヲ決セルキハ「スプリ
 ング」ヲ切斷シ「ジブ」シートヲ取直シ而メ「セイル」ヲ増
 掛シ次第ニ起シテ適帆スヘシ

潮流出帆

前ニ記載スル出帆諸法ニ於テハ拔錨ノ片唯「タセイ

ルト「ヘルム」ノ船ニ關係スル所ヲ以テ運用法ヲ施ス
 了ヲ論セリ然レモ爰ニ於テハ又「セイル」ヘルムニ加
 フルニ潮流ノ力ヲ併セ考ヘサルヲ得ス是レ潮流ハ
 運用ノ際之レカ爲メニ利ヲ得又之レカ爲メニ害ヲ
 被ムレハナリ

潮流ニ泊シ風モ亦船ヲ打タハ此兩勢中何レカ強ナ
 ルニ從ヒ或ハ風ニ向ヒ或ハ潮ニ向フ甲ヲ向風泊ト
 云ヒ乙ヲ向潮泊ト云フ

風潮ニ向ツテ泊シ左舷ニ廻頭シ「ス
 ターボールド」ニ出帆スル法第

二百五十七圖

ケイブルヲ卷キテ近錨トナシ「ヘルム」ヲ右船ニ取り
 置クヘシ此ノ如クフルハ潮「ラダ」ノ左面ニ當ルカ
 故ニ風ヲシテ少シク右舷ノ方ニ廻ハラシム此時「トッ
 プスル」ヲ掛ケ前後「ヤード」ヲ反廻スル「常法」ノ如ク
 シ「ジブ」及ヒ「スパンカル」掛方ノ用意ヲナシ置キ已ニ
 「エンコル」地ヲ離ル、キハ「ジブ」ヲ引揚ケ已ニ船左舷
 ニ廻頭スル「充分ナル」キ「ヘッド」ヤード「周廻ス」若シ
 「ヘッド」ヤードニ風ヲ入レサル前ニ船後退スルハ「ヘ
 ルム」ヲ左舷ニ取り直シ而メ後通法ヲ以テ運用スヘ
 シ

右ノ如キ場合ニ於テハ風潮ノ力合セテ錨ヲ拔ク為
 メニ勢アリ此故ニ風輕微ナラサル片ハ能ク注意シ
 テ錨引ケサル程ニセイルヲ掛クヘシ又ヘルムハ錨
 地ヲ離レサル前ニ廻頭ノ舷方ニ反對シテ取ルヘシ
 是レ通常潮流ナキ出帆法ニ異ナル所ナリ已ニ錨地
 ヲ離レテ船後退スル片ハヘルムヲ取直ス丁通常ノ
 法ニ同シ

風潮ニ向ツテ泊シ後退シテ出帆ス
 ル法第二百五十八圖

兩舷ニ碇泊船アリテ廻頭スルノ餘地ナキ片ハ此兩

船ノ間ヲ流退シテ後廻頭スヘシ其法「ケイブル」ヲ卷
 キテ込錨トナシ「トップ」スル「及ヒ」スパンカルヲ掛ケ「ブ
 ーム」ヲ正中ニ置キ「ポイント」ブレースヲ以テ諸「ヤード」
 ヲ半ハ旋廻シ而シテ「ケーブル」ヲ卷キ「エンコル」地ヲ
 離ル、片ハ「ヘルム」ヲ左舷ニ取ル故ニ潮ハ「ラダ」ノ前
 面ニ當レハ船尾ヲ左舷ニ廻ハス此時「セイル」逆ヲ打
 ツカ故ニ船直チニ後退シ潮力「ラタ」ヲ打ツノ作用ハ
 消失シ反テ水分後面ニ當ルニ由テ起ル所ノ「ラダ」ノ
 抗抵ト「スパンカル」ノ作用トニ由テ「ブール」ト「トップ」スル
 ノ為メ右舷ニ廻頭セントスルノ勢ニ頷頷ス故ニ前
 後相兼合ヲ以テ兩船ノ間ヲ潮ニ乘シテ流退スル

ナリ
若シ船右舷ニ廻頭シ過ルノ勢アルキハ「スパンカル、
ブーム」ヲ風上ニ偏シ「ミズン、トップスル」ヲ鋭ク上廻ス
ヘシ又流退スル間夕船尾ニ他船アリテ之レニ衝突
セントスルノ恐レアルキハ「スパンカル」ヲ絞リアフ
タル、セイル」ヲ飄動セシメ「ジブ」ヲ引揚ケ船ヲ「ビヨ
ルゼ、ウインド」ニ廻ハシ以テ他船ヨリノ距離ヲ増大ナ
ラシムヘシ
又法已ニ前ニ記載セル垂錨出帆ノ法ヲ以テ運用ス
ベシ

向風泊ニシテ逆風潮ナルキ右舷ニ
廻頭シ「ビヨール、ゼウインド」ニ出帆ス
ル法(第二百五十九圖)

ケ「ブール」ヲ卷キテ近錨トナシ「トップスル」ヲ掛ケ「ポ
ト、ブレース」ヲ以テ「ヘッド、ヤード」ヲ鋭ク前廻シ「アフタ
ル、ヤード」ハ其儘直方ニナシ置キ已ニ「エンコル」地ヲ
離ル、キ「ヘルム」ヲ右舷ニ取り船廻頭シテ「ジブ」ニ風
ヲ入ル、時ニ及ンテ之レヲ引揚ケ已ニ「アフタル、ヤ
ード」ニ風ヲ入ル、キ「ヘッド、ヤード」ヲ順廻シテ風ヲ
含マシム爰ニ於テ船前進スルキ「ヘルム」ヲ左舷ニ取
直シ次第ニ廻ハリテ「ビヨール、ゼウインド」ニナリタル

片ハ「ヘルム」ヲ正中ニナスヘシ
 右ノ場合ニテ「エンコル」地ヲ離ル、
 吹キ「セイル」逆ヲ打ツカ故ニ船直チニ後退シ逆廻セ
 ル「ブール」トツプスル「ハジブ」及ヒ潮壓ヲ後面ニ受ケタ
 ル「ラダ」ト共ニ船尾ヲ左舷ニ押廻ハシ船首ヲ右舷ニ
 廻轉スルニ至ルナリ
 上記ノ如ク「セイル」ヲ装スルキハ殊ニ風強ケレハ船
 ノ後退甚タシク前進ヲ始ムル前ニ振レ廻リノ為メ
 場所ヲ取ル丁甚タ廣シ而シテ之レヲ避クルノ法左ノ
 如シ
 スターボールド、ブレースヲ以テ「アフタル、ヤード」ヲ

半ハ上廻シ「ポート、アフタル、ブレース」ニ配員シテ廻
 頭セルキ下廻シテ再ヒ直方ニナスヘシ但シ「メイン」
 及ヒ「ミズン、トツプスル」ハ直方ニナス通常ニ飄動セシ
 ムルヲ要ス餘ハ前ニ準ス
 此法ハ狹隘ノ錨場ヨリ出帆スルキ必要ナルノミ若
 シ風甚タ強クシテ後退スヘキ餘地少ナキハ悉ク
 「ヤード」ヲ引揚ケ「ブール、トツプスル」ノ「ミ」
 「ジブ」ヲ掛ケ僅カノ後退ヲ以テ廻頭シ已ニ「ブ」
 「ル、セ、ウインド」ニナリタルキ装帆スヘシ
 向潮泊ニシテ風右船ノ二點ヨリ來

海軍兵學校 卷六 上 四三

ルキ右舷ニ廻頭シテ出帆スル法第
二百六十圖

ケイブルヲ卷キテ近錨トナシヘルムヲ左舷ニ取レ
ハ潮ヲダノ前面ヲ打ツカ故ニ船首ヲ風ノ方ニ廻ハ
ス而ソトツプスルヲ掛ケ前後ヤードヲ反廻スルヲ常
法ノ如クシスパンカルヲ掛ケ其ブームヲ右舷ノ
トルニ偏シジブ掛方ノ用意ヲナス此ノ如クスレハ
船一處ニ定止セス風上ニ潮リ而メ風下ニ落ルモノ
トス已ニエンコル地ヲ離レ風船首ニ来ルキジブヲ
掛ケポート、シートヲ後引シ尚ヘルムヲ左舷ニ取り
置ケハ後退ヲ始ムル迄ハヘッド、セイル及ヒラダノ作

用ニテ右舷ニ廻頭スヘシ
已ニ後退ヲ始ムルキハヘルムヲ取り直シ船首次第
ニ廻ハリテ風左舷ノポートヨリ来ルキハジブ、シート
ヲ取り直シ時宜ニ由リスパンカルヲ絞リ常法ノ如
クヘッド、ヤードヲ周廻シ風ニ應シテ装帆スヘシ
風船首ニ来ラスノエンコル地ヲ離ル、モ右舷ニ廻
頭ヤス或ハ左舷ノポートニ激流スル潮力トアフタ
ル、セイルノ風トニ由テヘッド、ヤードヲ周廻シテ風ヲ
入ル、為メ充分廻落セサルキハケイブルヲ繰出シ
テ接錨シ再ヒ他船ニ舫索ヲ取り或ハ左舷ノポート
ヨリスプリングヲ取りテ運用スヘシ

向潮泊ニテ風右舷「牙」トルヨリ来
ル「ク」スターボールド「テ」キニ出發ス
ルニハ餘地ナキ故ニ「ボ」ート「テ」キニ
出帆スル法第二百六十一圖

ケ「イ」ブルヲ巻キテ近錨トナシ「ト」ップスルヲ解キテ固
持シ「ヤ」ードヲ引揚ケ旋廻ノ「ボ」ート「テ」キニ据エ「ス」パ
ンカル及ヒ「ジ」ブ掛方ノ用意ヲナシ「ア」ームヲ右舷「牙」
トルニ偏シ已ニ「エ」ンコル地ヲ離ル「ク」ヘルムヲ
右舷ニ取切レハ潮流ノ為メニ船首左舷ニ廻落ス已
ニ「ス」パンカルニ風ヲ入ル「ト」至ラハ之レヲ掛ケ船

ヲシテ速カニ風ノ方ニ廻ハラシム已ニ風ニ溯リ夕
ル「ク」ハ「ジ」ブヲ掛ケヘルムヲ正中ニナシ已ニ風「エ」ビ
ームニ至ラハ「ト」ップスルヲ垂落シ「ト」ヲ引附ケテ
之ヲ掛ケ而シテ後装帆スル「ト」常法ノ如クスヘシ

同第二法第二百六十二圖

ケ「イ」ブルヲ巻キテ近錨トナシ「ト」ップスルヲ掛ケ「ヘ」ッド
「ヤ」ードハ其儘直方ニナシ置キ「ア」フタル「ヤ」ードハ「ボ」
ート「テ」キニ据エ已ニ「エ」ンコル地ヲ離レタル「ク」ヘル
ムヲ右舷ニ取切リ「牙」ール「ト」ップスル風ヲ含ム「ク」ハ船
前進ス此時「牙」ースルヲ垂下スレハ前進ノ勢愈加ハ

リテ左舷ニ廻ハル^レ早シ已ニ「スパンカル」ニ風ヲ入
 ル、ニ至ラハ之レヲ掛ケ「アフタル、ヤード」ト共ニ船
 ヲ風ノ方ニ近ツカシメ「ヘッド、ヤード」ヲ上廻シテ「オン
 子、ウィンド」ニ据ウヘシ此法ハ前法ニ比スレハ其功ヲ
 奏スル^レ確實ニシテ甚タ勝レリトス

風下ノ陸岸ニ向潮泊ヲナシテ出帆
 スル法

強風ヲ避ケテ風下ノ陸岸ニ近ク泊セリ今出帆セン
 ト欲スレハ強潮陸岸ニ沿フテ激流シ風ハ沖手ノ「ホ
 ー」ヨリ吹来ル此時出帆スル法ニ般アリ

甲法第二百六十三圖今船「スターボールド、ケーブル」
 ヲ以テ向潮泊ヲナス此時先ツ「ケーブル」ヲ巻キテ近
 錨トナシ左舷「タートル」ヨリ「スプリング」ヲ出タシテ
 「ケーブル」ニ結ヒ附ケ而シテ「トップスル」及ヒ「スパンカ
 ル」ヲ掛ケ前後「ヤード」ヲ反廻シ「ヘルム」ヲ左舷ニ取切
 リ「ボーイ」ヲ接下シ「ケーブル」ヲ解脱シ「スプリング」ヲ
 急速ニ巻込ミ「ケーブル」ヲ他ノ「ボー」ニ来ラシメテ右
 舷ニ廻頭セシム已ニ「ジブ」ニ風ヲ入ル、ニ至ラハ之
 レヲ引揚ケ「ヘルム」ヲ正中ニ取り「スプリング」ヲ切り
 「ヘッド、ヤード」ヲ周廻スヘシ

乙法第二百六十四圖前ノ如ク泊シ「ケーブル」ヲ解脱

シ「スプリング」ヲ用フルノ代リニ「エンコル」ヲ揚ケ前
 法ニ反シテ「ヘルム」ヲ右舷ニ取切り「ヘッド、ヤード」ハ銳
 ク逆廻シ「アフタル、ヤード」ハ殆ンド直方ニナシ置ク
 此法ニ於テハ前ノ如ク「スパンカル」ヲ用ヒス船首ヲ
 左舷ニ廻ハス「フ」ヲ助クル為メ「テール」ヲ用フ備後
 退ヲ始ムルハ「ヘルム」ヲ左舷ニ取り直シ「スターボ
 ールド、ブレイス」ヲ以テ「アフタル、ヤード」ヲ銳ク上廻
 シ「スパンカル」ニ風ヲ入ル、ニ至ラハ之レヲ掛クヘ
 シ

從風潮ニ泊シ船尾及ヒ兩横ニ危險

アルキ出帆スル法(第二百六十五圖)
 ケーブルヲ巻キテ近錨トナシ「テール、トップスル」及ヒ
 「テール、トップゲル」ニスルヲ掛ケ「ヘッドスル」ノ「バリヤー
 ド」及ヒ「テール、シート」并ニ「テール」ニ配員シ「ボート、ブレ
 ース」ヲ以テ「ヘッド、ヤード」ヲ逆廻シ「アフタル、ヤード」ハ
 引揚ケテ直方ニナシ置キ「セイル」ハ「ストップ」ヲ以テ假
 結シ備「ヘルム」ヲ左舷ニ取切り急速ニ「エンコル」ヲ巻
 揚ケ「テール」ヲ放下シ「ジブ」ヲ引揚ケテ「シート」ヲ風
 上ニ取り下手小廻ヲナシ時宜ニ由リ「ヘルム」ヲ取直
 ス已ニ風「エバフト、ゼ、ビーム」ニ至ラハ「スターボール
 ト、ブレイス」ヲ以テ「ヘッド、ヤード」ヲ直廻シ「アフタル、セ

イルヲ掛ケオンゼ、タートルニ出糞スヘシ

風潮ノ方向反對シテ中流ニ横泊ス
ル片出帆スル法第二百六十六圖

ビヲールゼウインドニ向ケント欲スル片ハ「アフタル」
ヤードヲ直方ニナシ置キ「ヘッド、ヤード」ヲ逆廻シ「エン
コル」ヲ卷キ揚ケ「ヲール、トップ」スル飄動スル片「ヘッド、ヤ
ード」ヲ直方ニナスヘシ
「バイゼ、ウインド」ニ装帆セント欲スル片ハ「アフタル、ヤ
ード」ヲ鋭ク上廻シ「ヘッド、ヤード」ヲ直方ニナシ置キ「エ
ンコル」ヲ卷キ揚ケ風上ニ近寄りタル片「ヘッド、ヤード」

ヲ上廻スヘシ第二百六十七圖

汽船出糞ノ心得

スナーム、シツプニ於テ「エンコル」揚方ノ用意并ニ「ゲ
ブル」卷方ハ「セイル、シツプ」ニ異ナルナシ但シ已ニ蒸
氣醸成シテ機關ノ回轉ヲ試ミタル後ニアラサレハ
揚錨スヘカラス又發航ノ前ニハ索類船外ニ懸垂シ
テ「バットル」^明輪或ハ「スクル」^暗螺ニ搦ラサル様注意スヘ
シ且ツ揚錨ニ際シ若シ「ケルブル」ノ卷方困難ナル片
ハ時々二三轉ナスカ或ハ徐々ニ前進シテ以テ之レ
ヲ助クヘシ然レ氏斯クノ如クシテ「ケーブル」船底ヲ

過クル程ニ及フヘカラス又若シ「エンコル」起キ難キ
 キハ豫シメ「コンプレスソル」ヲ締メ「ストツパル」ヲ掛ケ
 「ゲプステニ」ヲ強卷キシテ之レヲ助ケ前進シテ以テ
 地ヲ離スヘシ
 スチーム、シツプヲ以テ出發スルニハ廻頭ヲ促サンカ
 為メニ「ヘッド、セイル」ヲ用意スヘシ而メ「スパンカル」ハ
 多ク其用少キモノトス
 エンコルヲ卷揚ケテ後「カット」ヲ以テ其位置ニ納ムル
 迄ハ成ル丈ケ徐緩ニ前進スヘシ「エンコル」グライプ
 ニ鈎スルノ恐レアリ

適帆法

總說

風向及ヒ針路ノ轉變ニ從ヒ帆面ヲ之ニ適應スル業
 ヲ適帆法ト云フ是レニ五般ノ別アリ風後方ニ廻ハ
 リテ「ヤード」ヲ旋廻スルヲ下廻ト云ヒ風前方ニ廻ハ
 リテ「ヤード」ヲ旋廻スルヲ上廻ト云ヒ上廻若シクハ
 下廻シアル「ヤード」ヲ直方ニ旋廻スルヲ直廻ト云ヒ
 直方ニアル「ヤード」ヲ前方ニ旋廻スルヲ前廻ト云ヒ
 而メ一ツノ「ヤード」ヨリ他ノ「ヤード」ニ旋廻スルヲ周廻ト
 云フ

適帆ノ業ヲ施スニ方リ注意ス可キ數件アリ今左

ニ其要領ヲ舉ク

○適帆ノ業ハ強風ノ片カ或ハ操練ノ片ノ他ハ一舷直員ヲ以テ施行スル者トス故ニ航海中當直士官タル者最モ注意セサルヘカラス而シテ旋廻ノ法風後方ニ廻ハル片ハアフタル、ヤードヲ先ニシ「ヘッド、ヤード」ヲ後ニシ風前方ニ廻ハル片ハ「ヘッド、ヤード」ヲ先ニシアフタル、ヤードヲ後ニス其故ハ風向ノ前後ニ變スルニ從ヒ適帆ノ為メニ其「ヤード」ヲ旋廻スルノ際誤テ船首風上ニ溯リ不意ニ逆帆逆帆ヲ起スノ危難ヲ避シカ為メナリ

○ローア、ヤードハ自在ニ遊動シ得ヘキ「ツラス」ニテ

「マースト」ニ保着シ且ツ「スリング、チェーン」ニテ鉤リ掛帆ノ間々決シテ降ス「ナシ」ト「ツラス」ル、ヤードハ「バ」ルニテ保着シ「ツラス」ノ如ク自在ナラス掛帆ノ間々毎ニ降スモノトス故ニ甲ハ充分ニ旋廻スルモ風下ノ「リッギン」ニ觸レテ之ヲ強壓スルノ害ナシト雖「尺」乙ハ如斯ク充分ニ旋廻セハ風下ノ「リッギン」ニ觸レテ恐ラクハ「リッギン」ニ烈シキ張リカヲ起シ其「マースト」ト「ヘッド」ヲ風下即チ後方ニ引キ附ケ大ニ「マースト」及ヒ「リッギン」ニ害アリ右ノ理由ニ基キ殊ニ注意スヘキ事アリ「トップ、マースト、リッギン」ハ若干ノ勾配ヲ以テ下方ヘ開クモノナレハ「トップ」スル「リッギン」ヲ短縮シタル片「ヤード」ノ

位置下方ニアルニ應シ常ヨリモ旋廻ノ度ヲ減セザレハ之レカ為メニ風下ノリギン及ヒ「マースト」ニ害アリ故ニ斯クノ如キ片ニ方テハ「トップスル」ヤードノ「リ」リギンニ觸ル、ヲ以テ直ニ旋廻ヲ止ルヲ度トナス若シ「トップスル」ヲ全縮シタル片ハ「ヤード」ヲ殆ク「ト直方」ヨリ鋭ク旋廻シ得サルヘシ

○ジブ及ヒ「スパンカル」ハ恰モ四輪側砲ヲ使用スル木艇ノ如ク同一ノ理ニシテ「ウーザル」ヘルムヲ要スル片ハ「ジブ」ヲ掛ケリ、ヘルムヲ要スル片ハ「スパンカル」ヲ掛ケ又夕時宜ニ由リ「ジブ」或ハ「スパンカル」ヲ絞リテ「スウール」セイルノ兼合ヲ保チ以テ「ヘルム」ヲ

補助スル者ナリ

○メイン、ヤードヲ旋廻スルニハ「プレベントタル」ブレ「ス」ヲ用ヒ「アフタル」ブレ「ス」ヲ用フルヲナシ其故ハ「アフタル」ブレ「ス」ノ「ホーリン」パートハ下方ニアルヲ以テ「ヤード」ヲ旋廻セハリ、ヤード「ム」ヲ引下ケ從テ「ウーザル」ヤード「ム」自ラ上弁スルカ故ニ「メイン」スルノ「テッキ」ヲ充分ニ引附ルヲ能ハス「デッキ」如斯ナレハ「セイル」弛垂シ「メイン」シート「ク」餘リ後方ニ来リテ「シート」ヲ後引スルモ其功少ナシ又急速ニ「アフタル」ブレ「ス」ヲ引ケハリ、ヤード「ム」下方ニ屈曲シテ「ヤード」ニ害アリ殊ニ此「ブレ「ス」」ヲ以テ餘

リ銳ク「ヤード」ヲ旋廻セハリ、「ヤードーム」ノ索具拔
 ケントスルノ恐レアリ之レニ反シテ「プレメントル」
 「ブレース」ノ「ホーリン」パートハ上方ニアレハ「ヤード」
 水平ニ旋廻シテ前ノ如キ憂ヒナシ但シ強風ノキハ
 能ク「ツラス」ニ注意シナカラ前後ノ「ブレース」ヲ一齊
 ニ引クヘシ

○ラム「ヲ有スル」缺艦若クハ「グライプ」大ナル船ニ於
 テハ通常風上ニ溯ル病癖アルモノトス是故ニ常ニ
 「ブール」ツライスル「ヲ展加シ置クカ或ハ時宜ニ由リ
 「スパンカル」ヲ絞リア「フタル」ヤード「ヲ少シク下廻シ
 或ハ「ヘッド」ヤード「ヲア」フタル「ヤード」ヨリ銳ク上廻シ

務メテ船首ノ逆行ヲ防カン「ヲ要ス概シテ言ハ、
 斯クノ如キ船ニ於テハ後部ニ當ル風ノ壓力ヲ減少
 スルヲ良トス

○適帆ノ業ヲ施スニ方リ旋廻ノ度ヲ定ルニ「クロゼッ
 キ」ヤード「ハ」メイン「ヤード」ニ合ハスモノトナスト雖
 氏實地ニ於テハ「クロゼッキ」ヤード「ハ」メイン「ヤード」ヨ
 リ稍々角度ヲ減シ置クヲ良トス暗夜ノキハ殊ニ然
 リトス

下廻

風後方ニ廻ハリ「ブール」セ「ビー

△ノ一點ニ至ルキ「第二百六十八圖」

但シ風候適宜ニシテ「スターボード」ド、テッキノ「クロース、ホール」ドニテ「ローヤル」ヲ掛ケ走ルキ風變廻セルモノニシテ此時ヨリ「スバル、スタンズル」ヲ添加シ得ルナリ

總帆起シ方用意

此豫令ニテ總帆起シ方用意ノ為メニ「アフタル、セイル」ニ屬スル「ボ、ライン」ヲ遣放チ且ツ「メイン、スル」ノ

「テッキ」及ヒ「シート」ヲ弛ムル為メニ夫員ヲ配スヘシ

右舷「アフクル、ブレース」採レ

此令ニテ風上即チ右舷ノ「アフタル、ブレース」ヲ掌握シ風下ノ「ブレース」ヲ弛ムル為メ守ルヘシ

張合セ「ブレース」引ケ

此令ニテ「アフタル、ブレース」ヲ引キ同時一齊ニ反對ノ「ブレース」ヲ弛メ「アフタル、ボ、ライン」ヲ放チ「メイン、スル」ノ「テッキ」及ヒ「シート」ヲ適宜ニ弛ムヘシ既ニ「アフタル、ヤード」風ニ應シテ下廻シタルキハ「メイン、ブレース」留メ「クロゼッキ、ブレース」留メト令シテ之レヲ留メ直ニ「メイン、トップスル、ヤード」ト令シテ此「ヤ

トド「ラ」メイン、ヤードニ適合セシム但シ「ロー」ア、ヤードハ當直士官ノ見込ニテ之レヲ定メ「トップ」スル、ヤードハ當直士官ノ令ヲ受ケ水兵長屬之ヲ定メ「ア」ハル、ヤードハ旋廻手之レヲ定ルモノトス但シ「適帆」ドノヲ旋廻スルハ必ス右ノ如ク「トップ」スル、ヤードハ唯テ之レヲ定メシムルモノナレハ以下此令ヲ略シル、ブレース留ノ「ト」若クハ「ア」フク己ニ「ア」フタル、ヤードノ位置定マレハ直ニ次ノ令ヲ下ス

右舷「ド」ブレース「採」レ

此令ニテ「ア」フタル、ブレースノ「キ」ト同シ用意ヲ為ス

張合セ「ブレ」ース「引」ケ

此令ニテ「ア」フタル、ヤードノ「キ」ニ同シク之ヲ施シ而

ノ「キ」ール、ヤードハ「メイン」、ヤードト平行ニ旋廻スル「ト」ヲ要ス已ニ諸「ヤード」ノ位置全ク定リタル「キ」次ノ令ヲ下ス

左舷「ド」ブレース「リ」フト「ツ」ラス「張」レ

此令ニテ「ブレ」ース「リ」フト及ヒ「ツ」ラスヲ緊張シ以テ「ヤード」ヲ確定スヘシ但シ其前「コース」ノ「キ」及ヒ「シ」ト「ト」ヲ張込ミ又「キ」ール、エンド、アフト、マイル「掛」ケアレハ其「シ」ト「ト」ヲ「モ」弛メ風ニ適合スヘシ右ノ業終レハ時宜ニ應シ風上ノ「ス」パル、スタン「ス」ルヲ添加ス其令左ノ如シ

右舷「トップ」、マース「ト」トップ、ゲルン、スタン「ス」ル「掛」ケ

方令豫

但シ諸「スタン」スル取扱七方ハ第四教「スタン」スルノ條ニ説明アレハ茲ニ唯夕號令ニ關セ
ル要略ヲ述フルノミ

昇リ方用意

此令ニテ當直ノ檣樓長事業部檣樓手「ブーム」掛リ「トップ」
「フスル」シ「シート」掛リ登檣スル為メ「リッギン」ニ附テ後令
ヲ待ツ

昇レー

此令ニテ右ノ夫員盡ク「トップ」ニ昇リ檣樓手中「ゲルン」
「ヤード」掛リハ「トップ」スル「ヤード」ニ至リ「プレメンタル」

リフト「ニ」ボルトン「チ」鉤ケ其「ホール」ヲ「トップ」ノ「ラベル」
ス「ホール」ヨリ下ニ降シ次ニ「ゲルン」スタン「スル」ブ
ム「ヲ」出ス用意ヲ為ス其「ローヤル」ヤード「掛リ」ハ「ゲル
ン」リフト「ニ」ジッガル「ヲ」置キ其「ホール」ヲ「トップ」ニ下ス檣
樓手ノ「トップ」ニアル者ハ「ゲルン」スタン「スル」テ「ッキ」及ヒ
「シート」ニ注意シ又「セイル」リッギン「ヲ」離レテ昇ルキ差
支ナキ様ニス「トップ」スル「シート」掛リハ「ローア」ヤード
ニ至リ「トップ」マースト「スタン」スル「ブーム」ヲ出ス為メ
ニ「ブーム」ジッガル「ヲ」鉤ケ次ニ「シヨルト」シート「ヲ」通ス為
メニ「テール」ブロック「ヲ」置ク而シテ檣樓長及ヒ「ブーム」掛
リハ右ノ諸作業ヲ補助スヘシ

ゲルン、スタンズルハ「トップマースト、リッキン」ニ固定シ
 アリテ常ニ諸具ヲ取附ケ置クモノナリ「トップマース
 ト、スタンズルハ」アウタル、アームヲ上ニ向ケ「ポール、
 リッキン」若クハ「ポール、マスト」ニ添フテ置キ索具ハ取
 附ケ置カサルナリ故ニ其「ハリヤード」及ヒ「テッキ」等ハ
 甲板ニテ取附ケ「テッキ」及ヒ「ブーム、ブレース」ヲ後方ニ
 遣リ共ニ風上ノ「メイン、リッキン」ノ「ブロク」或ハ舷側ノ
 「アヤ、リール」ヲ通ス而シテ「ブーム」ヲ送り出ス迄ハ諸
 具ヲ弛メ置クヘシ右用意整フタルハ次ノ令ヲ下ス
 トップゲルン、トップマースト、スタンズル、ハリヤ
 ド「ブーム、ジッガル」採レー

此令ニテ「トップゲルン、トップマースト、スタンズル、ハリ
 ヤード」ブーム、ジッガル」及ヒ「テッキ」ヲ掌握ス
 張合セー「ブーム」出セー「スタンズル」**袂揚**ゲ
 此令ニテ「ブーム」ヲ出シ「ハリヤード」ヲ引キゲルン、ス
 タンズルハ「トップズル、ヤード」**迄**「トップマースト、スタン
 スルハ」ローア、ヤード」**迄**揚リタル片外方ニ居ル
 モノハ「セイル」ノ上ル片之レヲ能ク注意シナカラ外
 部ノ結索ヲ切り除ケ「ブレース、ブロク」ノ上ニ「セイル」
 ヲ水平ニ置キ外部ノ「ストップ」ニ「ナイフ」ヲ當テ**揚**ゲ
 ノ令アラハ直ニ之レヲ切ル用意ヲナシ内方ニ居ル

モノハ「ヒール、ラシン」ヲ以テ「ヒール」ヲ固定シ「トップ」内ニ居ルモノハ「シート」及ヒ「デッキ」ニ注意シテ後令ヲ待ツ

張合セー 揚ゲー

此令ニテ「ハリヤード」ヲ尚ホ引キ「セイル」ヲ充分高く揚ク而シテ「トップ、マースト、スタン」スルヲ掛ルヤ否ヤ「ロア、ヤード」ノ内方ニ居ルモノハ「ショルト、シート」ヲ其「ブック」ニ通シテ「トップ」ニ採リ外方ノモノハ「デッキ、シート」及ヒ「ダオン、ホール」ヲ諸具ノ前ニ替ハシ「フォクス」ニ降ス但シ減帆ノ時ノ為メニ「デッキ、シート」ハ「フォクス」ノ風上ニ取り「ダオン、ホール」ハ風下ニ置タル「リ

ジング、ブック」ニ通ス又兩舷ノ「スタン」スルヲ掛ケタルキモ「デッキ、シート」ハ各自「セイル」ト同一ノ舷方ニ取り「ダオン、ホール」ハ反對ノ舷方ニ取り互ニ十字ニ横切ルヘシ
風強キキ「スタン」スルヲ掛ケ或ハ仕舞フニ船ヲ少シク起セハ取扱ヒ易キモノナリ

風後方ニ廻ハリ「エバフト、ゼ、ビー」ムノ一點ニ至ルキ
但シ此時ヨリ「ローア、スタン」スルヲ添加シ得ルナリ

總帆起シ方用意ノ令ヨリ始メ「ヤード」旋廻ノ業ハ凡テ前法ニ同シ唯タ「スタン」スル、テ「キ」ブ「ム」ブ「レ「ス」ノ弛ミヲ詰ル為メニ夫員ヲ配スル丁ノ差アルノミナレハ爰ニ之レヲ略ス

若シ疾走ノ際船傾クキハ「ローア」スタンスルハ他ノ「ローア」スタンスルノ位置「ブール」ヤードノ筋ヨリ後口ニアルキハ下壓ノ勢最モ多ク且ツ風餘程前方ヨリ来ルキハ殊ニ甚シク「ブーム」テ「ボ「ー」ノ下ニ沈入セシムル程ニ至ルノ恐レアリ故ニ「ローア」スタンスル、ブームハ「ブール」ヤードノ筋ヨリ前方ニ置キ以

テ上揚ノ帆トナスヲ良トス

右舷「ローア」スタンスル掛方

此豫令ニテ先ツ「ブール」リフト「ブール」ブ「レ「ス」及ヒ「ツ」ラス「ラ」緊張シ時宜ニ由リ風上ノ「ブール」テ「キ」ブ「ー「ス」ルノ「ク」ム「ー」ヲ「ローア」スタンスルニ密着セサラシメ而シテ「マイル」ノ諸具ヲ結附ケ其外端ヲ「ハンモック」テ「ン「グ」ノ上ニ置ク

トップスル、シート掛リ昇レ

此令ニテ「トップスル」シート掛リ昇リテ「リザード」ヲ「ローア」ヤード「ム」ニ運ヒ出シテ爰ニ固定シ或ハ「ロン

ローア、ヤーダームニ引キ出スキノ用意ヲナス
 ローア、ブーム、トッピンリフト、テール、ガイ採レ
 此令ニテローア、ブーム、トッピンリフト及ヒテール、ガ
 イヲ掌握ス

張合セー ブーム揚ゲー 出セー

此令ニテローア、ブーム、トッピンリフトヲ以テブーム
 ヲ揚ケアフタル、ガイニ注意シナカラテール、ガイヲ
 引テブームヲ出ス

ローア、スタンスル、ハリヤードヲキ採レ

此令ニテローア、スタンスル、ハリヤード及ヒテールヲ
 掌握ス

張合セー 揚ゲー

此令ニテローア、スタンスルヲ引揚ケ之ヲ掛クヘシ
 但シ張合セーノ令ハ諸動索ヲ引ク片ニハ必ス下
 スモノナリ故ニ以下之ヲ略ス

ローア、スタンスルヲ添加スルキハ通常「フライン、ジ
 ブ」及ヒ「ジブ」ヲ下シ「トップマースト、ステール」ヲ上ル
 者トス

風後方ニ廻ハリオン、ゼ、テールニ
 至ルキ

適帆ノ業凡テ前法ニ同シ但シ風上ノ「メイン、クリム」

ヲ引揚ケテ風ヲ「ブーム」ニ送ル為メニス
 「ブーム」ハ「ブール」ヤ「ド」ヲ下廻シテ後チ適宜
 ニ釣合スヘシ
 「ブーム」ニ「ミズン」ボルトンヲ鈎シ成ル丈
 ケ諸具ノ外ニ於テ「リ」ノ「ブーム」ノ前方ニ遣ルヘシ

風後方ニ廻ハリ「オン」ゼ、
 「ブーム」ノ
 一點ニ至ルキ

適帆ノ業前法ニ同シク「ブーム」ヲ殆ント直方ニナシ
 風ニ適合セシム但シ「ブーム」旋廻ノ度ハ時宜ニ由リ
 一定シ難シト雖モ常ニ風向ノ度ヨリ幾分力多ク下

廻シアルヲ利トス

此時ヨリ他舷方ノ「ブーム」スタンスルヲ添加シ得ヘ
 シ其法前法右舷ノ「ブーム」スタンスルニ同シ唯々之
 レヲ前面ニ掛クルノ差アリ即チ左舷某「ブーム」スタンスル
 前面掛ケ方ト豫令ス但シ風下ノスタンスルハ「ブーム」
 「ブーム」ノ前面ニ掛クヘシ然ラサレハ「ブーム」
 「ブーム」ニ當リタル風其前面ノ方ニ逃レ去リテスタ
 「ブーム」ヲシテ無能ニ屬セシム
 風下ノスタンスルヲ前面ニ掛クルニ最モ容易ナル
 法ハ其「ブーム」ト細索ニテ「ブーム」子ル「ブーム」
 ニ結ヒ其餘ハ通常ノ如クナシ之レヲ引揚ク此結索

ハイン子ル、ヤードーム昇リテ、ジエール、ブロックノ處ニ來ル片、ハリヤードヲ引テ破斷ス或ハ、アパル、ヤートニ人アリテ之レヲ切ルヘシ而テ結索離ルレハ、セイルハ諸具ノ前方ニ位置スルナリ然レモ、スタンスルヲスクエール、セイルノ前面ニ掛クレハ、スクエール、セイルヲ損スルノ害アルヲ免レス故ニ若シ船動搖強キ片ハ之レヲ仕舞ニ若クハナシ

此場合ノ如ク風後方ニ廻ハルモ尚ホ「トップマースト」ステースルヲ存シ置キ以テ船首風上ニ溯ルノ害ニ備フヘシ

風船尾ニ廻リタルキ

此時ハ最初「メイン」スル及ヒ「スパンカル」ヲ絞リ續テ次ノ如ク令ヲ下ス

ヤード直シ方用意

此豫令ニテ「ヤード」旋廻ノ業前法ノ如クナス

ブーム掛リ昇レ

此令ニテ「ブーム」掛リ「トップ」ニ昇リ左舷ノ「ゲルン」スタンスル、ホッキ及ヒ「シート」ヲ弛ムル為メ用意ヲナス

右舷「アフタル」ブレリース探レ

此令ニテ前法ノ如クナシ且ツ左舷ノ「ゲルン」スタンスル及ヒ「トップマースト」スタンスル、ハリヤードヲ注

意ス

アフタル、ヤード直セー

此令ニテ「アフタル、ヤード」ヲ直方ニナシ「メイン、ゲルン、スタンズル、テッキ」シート及ヒ「バリヤード」ヲ張込ミ直ニ次ノ令ヲ下ス

右舷「ヘッド、ブレース」採レー

此令ニテ「ヘッド、ブレース」ヲ掌握シ右舷ノ「ブール、テッキ」及ヒ左舷ノ「ブール、シート」ヲ弛メ「スタンズル」ノ諸具ヲ注意ス

「ヘッド、ヤード」直セー

此令ニテ「ヘッド、ヤード」ヲ直方ニナシ「ブール」ノ「シー

ト」ヲ適宜ニ延シ而シテ「テッキ」ノ弛ミヲ詰ム

ブレース「リフト」ツラス「張レー

此令ニテ兩舷ノ「ブレース」ツラス及ヒ「リフト」ヲ張込ミ「ブレース」及ヒ「リフト」ハ「スグル、マーク」ニテ留メ而シテ是迄後面ニアリシ右舷ノ「アップル、スタンズル」ヲ

前面ニ替ハスヘシ其法「スタンズル」ヲ半程迄降シ「アップル、アーム」ヲ以テ「インチル、アーム」ヲ「トップスル」ノ

「リッチ」ノ前ニ替ハスナリ
適帆ノ業全ク終ラハ時宜ヲ察シ左舷ノ「ローア、スタンスル」ヲ添加ス其仕方前方ニ同シ
斯クノ如ク「ブール、ゼ、ウインド」ノ片ハ横側ヨリ来ル

風ヨリモ船動揺スル一多キカ故ニ能クヘルムニ注意シテ航路ヲ保ツヘシ但シ兩舷ニ「スタン」スルヲ添加シタルキハ船首轉變シテ常ニ羅盤ノ一點位程ノ間タヲ左右シ決シテ一針路ノ點ヲ確守スル一能ハサラシム

上廻

風前方ニ廻ハリ「ポート」ト「スター」トニ至ルキ第二百六十九圖

風向俄カニ前方ニ變ルキハ成ル丈ケ速ニ針路ヲ變シテ元ノ位置ノ如ク風ヲ船尾ニ来ラシメ風下ニナ

リタル方ノ「スタン」スルヲ取込ムヘシ其令次ノ如シ

右舷「スタン」スル「絞」リ方令

但シ右舷總「スタン」スルヲ一齊ニ絞ル例ヲ舉ク

昇リ方用意

此令ニテ登檣人負掛方ノ「キ」ニ同シ

昇レ

此令ニテ掛方ノ如ク各員持場ニ至ル

ローア、スタン、スル、ツリッピン、ライントップ、トップ、ダ
ル、ニ、スタン、スル、ダオン、ホール「アーム」ム、ジツカル「ア
フタル、ガイ」採レ

此令ニテ「ローア、スタンズル、ツルピン、ライントップ、マ
トスト」及ヒ「トップ、ゲルン、スタンズル、ダオン、ホール」ヲ
キ、シート「ブーム、ジッカル」トピン、リフト「及ヒ「ア、タル、
ガイ」ヲ掌握シ「トップ、ゲルン」及ヒ「トップ、マースト、スタン
ズル、ハリヤード」ヲ「ツッキ」及ヒ「シート」ヲ守リテ後令ヲ待
ツ

ブーム「揚ゲ」 スタンズル「夾下ロセ」

此令ニテ「ローア、ブーム、トップ、ピン、リフト」ヲ引キ「ローア、
ブーム」ヲ舉揚シ「ローア、スタンズル、ツッキ」ヲ弛メ「ツリ、
ピン、ライン」ヲ引テ「ローア、スタンズル」ヲ釣リ揚ケツ
ツ「ハリヤード」ヲ延ハシテ「アップル、スタンズル」ヲ夾追

下シ而ノ次ノ令ニ移ル

絞レー

此令ニテ「ダオン、ホール」及ヒ「ツッキ、シート」ヲ引テ「アップ
ル、スタンズル」ヲ絞リテ下シ「ローア、スタンズル」ハ「ア
ウタル、ハリヤード」ヲ延シ「イン子ル、ハリヤード」及ヒ
「シート」ヲ引テ甲板ニ取込ムヘシ但シ或ル船ニ於テ
ハ「フォール、マースト」ノ位置通常ヨリ多ク前方ニアル
コトアリ如斯船ニ於テハ「トップ、マースト、スタンズル」ヲ
絞ルキ若シ「ヤード」多分ニ旋廻シアレハ「ツッキ、シート」
及ヒ「ダオン、ホール」ヲ諸具ノ後ニ替ハシ之ヲ「ダース
ル」ノ後面ニ降スヲ便トス

ブーム入レ

此令ニテ「アフタル、ガイヲ引キ、テール、ガイヲ弛メテ
ローア、ブームヲ收メ、ブーム、ジツガルヲ引テ「トップマ
スト、スタンスル、ブームヲ收入シ同時ニ「ゲルン、スタ
ンスル、ブーム」モ收入ス但シ「ポルトン」及ヒ「ジツガル」ハ
各「スタンスル」ヲ絞ラハ直ニ取脱ス「ヲ忘ルヘカラ
ス右ノ如クシテ「スタンスル」ヲ全ク取入レ終ラハ續
テ次ノ令ヲ下ス

總帆開キ方令

昇リ方用意

此令ニテ「トップスル、シート」掛リニ名「ブーム」掛リニ名

「リッギン」ニ附キテ後令ヲ待ツ

昇レ

此令ニテ「トップスル、シート」掛リ一員昇リテ「ローア、ヤ
ード」ニ至リ「ツラス」ヲ繰越シ他員ハ「リ、トップマース
ト、リッギン」ニ至リ「リフト」ヲ繰越ス而メ「ブーム」掛
リノ一員ハ「トップ」ニ至リ「ゲルン、スタンスル、」ヲ注
意シ他員ハ「ジツガル」ニ注意ス

リフト「ツラス」繰レ

此令ニテ風下ノ「リフト」及ヒ風上ノ「ツラス」ヲ能ク繰
越スヘシ

右舷「ヘッド、ブレース」採レ

此令ニテ右舷即チ風下ノ「ヘッド、ブレース」ヲ掌握シ風上ノ「ヘッド、ブレース」ト「トップマースト、スタンシスル、ホッキ」ブーム、ブレース及ヒ「ボルトン」ジツガルヲ守リ「ヤード」旋廻ノキ「トップマースト、スタンシスル、ブーム」ハ常ニ其所屬ノ「ヤード」ト並行スル様注意スヘシ

ブレース引ケ

此令ニテ風下ノ「ヘッド、ブレース」ヲ引キ「ヤード」適宜ノ位置ニ至レハ「留メ」ト令シ直チニ次ノ如ク令ス

右舷「アフタル、ブレース」採レ

此令ニテ右舷ノ「アフタル、ブレース」ヲ掌握シ「ヘッド、ヤード」ヲ上廻スルト略ホ同様ノ索ヲ守ルヘシ

ブレース引ケ

此令ニテ「アフタル、ヤード」ヲ上廻シ「ヤール、ヤード」ニ釣り合セ已ニ前後ノ「ヤード」定マリタレハ次ノ令ヲ下ス

「ウーザル、ブレース」リフト「ツラス」張レ

此令ニテ風上ノ「ブレース」リフト及ヒ「ツラス」ヲ張込ミ時宜ヲ見テ左ノ如ク令ス

「リ、クリ、メイン、スル」スパンカル「掛方」
ト「プスル、シート」掛リ昇レ

此令ニテ「トップスル、シート」掛リハ昇リテ「ローア、ヤード」ニ至リ風下ノ「メイン、リ、チ、ライン」スラブ、ライン

及ヒ「バント、ライン」ヲ繰越ス為メ用意ヲナス又甲板
ニテハ「スパンカル、ブーム」ヲ舉揚シ之レヲ風下ノ「タ
ートル」ニ偏シテ後令ヲ待ツ

リ、「メイン、シート」「スパンカル、アウト、ホール」採
レ
メイン、スル「索具繰レ」

此令ニテ風下ノ「メイン、シート」「スパンカル、アウト、ホ
ール」ヲ掌握シ「トップスル、シート」掛リハ「メイン、スル」ノ
索具ヲ繰越ス

弛メ

此令ニテ風下ノ「メイン、クリ、」ガ「リット」「スハンカル、

アウト、ホール」ヲ弛ム

リ、「メイン、シート」「スパンカル、アウト、ホール」引
ケ

此令ニテ風下ノ「メイン、シート」及ヒ「スパンカル、アウ
ト、ホール」ヲ引ク

スタンスル」ヲ添加セルキ「ヤード」ヲ旋廻スルニハ其
「バリヤード」「デッキ」「シート」及ヒ「ブーム、ブレース」ニ夫員
ヲ配置シテ能ク注意セシムルヲ必要ナリ

風向漸々船首ノ方ニ廻ハレハ風上ノ「メイン、クリ、」
ヲ下スヘシ

風「エビーム」ニ至レハ「ローア、スタンスル」ヲ取込ムヘ

置キ投錨ノ後直チニ脱スヘシ
 投錨ノ為メ陸岸ニ近ツカハ絶エス深淺ヲ測量シ暗
 夜或ハ霧深キハ殊ニ之ヲ注意スヘシ且ツ夜間霧
 深ク或ハ風烈シキハ已ヲ得サルキノ他ハ決シテ
 陸地ニ向テ航進スヘカラス必ス踟躕法ヲ行フカ或
 ハ時々「カギ」ヲ交換シテ陸地ニ進退シ以テ時期ヲ待
 ツヘシ但シ甲法ニ於テハ潮流ニ押流サル、丁甚夕
 シキカ故ニ船ノ位置ヲ推定スル丁容易ナラスト雖
 モ乙法ニ於テハ之レヲ推定スル丁難カラス且ツ甲
 法ニ於テハ殊ニ風壓ト潮流ニ注意シ乙法ニ於テハ
 一進一退必ス退クヨリ進ム丁ヲ減少スル丁ニ注意

スヘシ
 投錨ニ臨マハ「フラインジブ」^{フラインジブ}「アパル、セイル」^{アパル、セイル}「ユース」等
 ヲ仕舞ヒ「トップスル」^{トップスル}「ジブ」及ヒ「スパンカル」^{スパンカル}ノ如キ使用
 ナル「セイル」ヲ以テ錨所ニ入来リ「セイル」ヲ絞リ船ヲ
 風上ニ溯ラシメ而シテ後退ヲ始ムルキ「エンコル」ヲ投
 下スルヲ良法トス斯ノ如クスルキハ「エンコル」常ニ
 正シク落下スルモノトス即チ一方ノ「アーム」土中ニ
 侵入シ「ストック」平坦ニ坐シテ「リング」船首ノ方ニ向ク
 カ故ニ船ハ「ゲイブル」ノ直後ニ落下シテ堅固ニ碇止
 スル丁ヲ得ヘシ且ツ投錨スルニハ「エンコル」ヲ投下
 スヘキ舷方ヨリ他ノ舷方ニ於テ風上ニ溯リ投錨ス

スルヲ常法トス其故ハ船風上ニ溯ルモ全ク逆風ニ
 来ルヲナク或ハ再ビ風下ニ落チシトスルモノナレ
 ハ斯クスルキハ擲錨トナルヲナク且ツ「エ」ン「コ」ル「船」
 ヨリ離レテ落下スルヲ以テ「ゲ」ー「ブ」ル「銅」板ヲ磨損ス
 ルヲナシ但シ港内廣闊ナラサルキハ其模様ニ由リ
 出帆ノ節廻頭セント欲スル方ト反對ノ舷方ニ投錨
 スヘシ

オン子、ウインドニ走り投錨スル法
 投錨ノ為メ「エ」ン「コ」ルヲ用意シ且ツ「ゲ」ー「ブ」ル「走」出ノ
 為メ差支ナカラシメ已ニ用意整フタル所左ノ令ヲ

下タス

総員上へ

此令ニテ水兵長属吹笛シテ總員ヲ甲板上ニ集會セ
 シム

総帆絞方投錨用意

此豫令ニテ水兵長属吹笛シテ之レヲ總員ニ傳令シ
 各自其部署ニ就カシム

昇方用意

此令ニテ當直檣樓長「ア」ッ「パ」ル、「ヤ」ード「掛」リ「ブ」ー「ム」
 及ヒ「ト」ッ「プ」スル、「シ」ー「ト」
 掛リ各「リ」ッ「ギ」ン「レ」ニ就ク
 昇レ

此令ニテ檣樓長及ヒ「ブーム」掛リハ「トップ」ニ至リ「トップ」スル、シート「掛リハローア、ヤード」ノ「バント」ニ至リ「ブーム」ヤード「掛リハ」マースト、ヘッド「ニ至テ後令ヲ待ツ」ブーム、メイン、クリュー「ガ」キット、バント、ライオン「トップ」プゲルン、ローヤル、クリュー、ライオン「フライン、ジブ」ダオン、ホール「採レー」

張合セー

絞レー

此令ニテ「コー」ス「トップ」ゲルン「ローヤル」及ヒ「フライン、ジブ」ヲ「絞リ」ア「パール、ヤード」ヲ「降下」シテ之レヲ「直廻シ」次ニ「アップル、セイル」及ヒ「フライン、ジブ」ヲ「拾リ」而テ「愈

く錨處ニ近ツカハ適度ヲ計リテ次ノ令ヲ下ス

「トップ」スル、クリュー、ライオン「バント、ライオン」ジブ、ダオ

ン、ホール「採レー」

張合セー

クリュー「揚ゲ」ジブ「下ゲ」

此令ニテ「トップ」スルヲ「絞リ」ジブヲ「下ス」但シ風ニ潮ル為メ「ヘルム」ヲ「下手」ニ「取ル」ヘシ次ニ

右舷或ハ左舷「エンコル」用意

此令ニテ「カット、ヘッド、ストップ」及ヒ「シヤンク、ペイン」タルヲ「放ツ」為メ「用意」ナシ且ツ「ボーイ、ロープ」ヲ「捌ク」ヘシ

ウエーザル、ブレース採レーハリヤード就ケー
降セー直セー

此令ニテ「トップスル、ヤード」及ヒ「ローア、ヤード」ノ「ウエーザル、ブレース」ヲ採リ「ハリヤード」ニ配負シ「トップスル、ヤード」ヲ降下直廻スヘシ已ニ「ヘルム」ト「スパンカル」ニテ風上ニ溯リ已ニ船首風ニ向ハ、「ヘルム」ヲ正中ニ取直シ前進止ミ後退ヲ始ムルキハ次ノ令ヲ下ス

ボーイ入レー

右舷或ハ左舷「ケーブル」氣ヲ附ケー

エシコル「下口セー

スパンカル「絞レー

ケーブル「幾ツ出セー

此令ニテ「ボーイ」ヲ投下シ「ケーブル」走出ニ差支ナキ様注意セシメ「カット、ヘッド、ストップ、バル」及ヒ「ジャンク、ペインタル」ノ「モンキー、テール」ヲ引ヒテ「エシコル」ヲ放下シ「スパンカル」ヲ絞ルヘシ已ニ「ケーブル」走出シテ適應ノ長サニ至ラハ「コンプレスソル」ヲ締メ「デッキ、ストップ」ヲ掛クヘシ但シ「ケーブル」ノ長量ハ深サノ三倍ヲ以テ常法トスレハ風潮ノ勢ニ由リ尚多量ヲ出スヘシ然レハ「揚錨」ノ患ヒアレハ「一頓」ニ之レヲ出スヘカラス而ノ「投錨」了ラハ「括帆」ノ業ヲ旋スヘシ

ビネール、セ、ウインドニ走り投錨スル
法

諸般ノ用意及ヒ減帆ノ順序ハ「オン子、ウインド」ニ異ナル
「ナシ然レ」此時ハ「メインスル」及ヒ「スパンカル」ハ掛ラサルカ故ニ船錨處ニ来リ方ニ投錨セントスルニ臨ミ「スパンカル」ヲ引出シ「ベルム」ヲ下手ニ取りテ船首ヲ風上ニ溯ラシム餘ハ「オン子、ウインド」ニ同シ
航進ノ儘直チニ投錨スル法
船ヲ後退シテ投錨スルノ法ハ最モ良ナリト雖「平常」ニ必ス此規則ニ從テ施ス「得」ス其故ハ狹隘ナル

港内若クハ船舶輻湊セル港灣ニ於テ占ムヘキ錨處ノ範圍甚ク狭少ナルカ如キハ船投錨スヘキ位置ニ至リ常法ノ如ク風上ニ溯リ且ツ後退スル「ナク」直チニ「ネール、セ、ウインド」ニ投錨スヘカラサルヲ得サレハナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ錨處ニ達スル爲メ「欠クヘカラサル」ノ他ハ勉メテ「セイル」ヲ減少シ而シテ投錨ニ方リ殘レル「セイル」ヲモ一齊ニ仕舞フヘシ
右ノ如キ場合ニ於テ船ノ前進ヲ止ムル爲メ「ゲイブル」ニ「セツキストップ」ヲ結ヒ置キ「セイル」ヲ絞括シテ前進ノ勢ヲ減シ徐々ニ錨處ニ近ツク「アリス」クノ

如クシテ投錨スル片ハ「チェツキ」ストップ「次第」ニ切レ
テ「デッキ」ニ並列シタル「ケーブル」盡ク走出セサル前ニ
前進ノ勢ヲ止ムルモノナリ

天候不良ナルニ至ラハ出帆セサル
ヲ得サル所ニ沖泊スル法

此ノ如キ場所ニ沖泊スルニハ豫メ「ケーブル」ヲ解脱
スル用意ヲナシ若シ天候不良ナルニ及ハ、直チニ
出帆スルニ備フヘシ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ豫
メ其地勢風候ヲ考ヘ「ケーブル」ヲ放チテ廻頭スルニ
差支ナキ様ニ「エンジン」ヲ投スヘシ即チ右舷ニ廻頭

セントスル片ハ左舷ニ投錨スルカ如シ已ニ投錨ノ
後ハ「コース」及ヒ「トップスル」ノ「リーフ」ヲ縮メテ之ヲ括
リ「ストルム、セイル」ヲ取附ケ且ツ凡ヘテ暴風ノ用意
ヲナスヘシ

放棄シタル「エンジン」ヲ拾揚ル法

前條ノ如キ場合ニ臨ミ「ケーブル」ヲ解脱シテ出帆シ
タル後再び舊泊處ニ還ル片ハ更ニ投錨スルヲナク
沈没シタル「エンジン」ヲ拾揚クルヲ巧ミノ業トス備
此業ヲ施スニハ「セイル」ヲ「トップスル」ニマテ減少シ「ボ
ト」ノ風上ニ蹴躑シ端船ヲ降下シ「ホーセル」ヲ縮子

積ミボローイロフノ放棄セルモ一ノヲ拾揚ケ「ホー
 セル」ヲ之レニ固結シ本船ノ「ボ」ニ於テ「ホ」ズ「ホ」
 ルヨリ「ホ」セルノ一端ヲ引込テ之レヲ卷入レ已ニ
 「ゲ」トブルノ一端船内ニ来ラハ「ビット」ニ掛クル程充分
 ニ繰込ミ「ビット」ノ前ニテ「ストップ」ヲ掛ケ而シテ殘レ
 ル「ゲ」トブルノ端ニ之レヲ鎖住スヘシ
 放棄シタル「エ」ンコルヲ探鉤スルニ「ボ」イ「ロ」ト「プ」水
 面ニ顯出スル「キ」ハ之レヲ以テ引揚クルノ便アリト
 雖モ若シ「ボ」イ「ロ」ト「プ」ヲ失ヒ或ハ之レアルモ水面
 ニ顯出セサル「キ」ハ左ノ法ヲ以テ之レヲ探鉤スヘシ
 海底ノ深淺ニ應シテ一ニ重測鉛線ヲニ「カット」ルニ

配分シ豫シメ測定ヤル「エ」ンコルノ位置ヨリ風上ニ
 漕キ廻ハシ測鉛線ノ各處ニ測鉛ヲ錘トナシ次第ニ
 測鉛線ヲ繰リ下ケナカラ兩端船互ニ離レ「エ」ンコル
 ニ向テ静カニ風下ノ方ニ漕キ来リ「ア」バル「フ」リ「ク」
 ヲ探鉤センカ為メ測鉛ヲ海底ニ摺リ曳クヘシ斯ク
 ノ如クシテ已ニ「エ」ンコルヲ探鉤シ得タル「キ」ハ兩端
 船互ニ横交シ「エ」ンコルニ近接シテ測鉛線ヲ直垂
 ナラシムヘシ
 若シ放失シタル「エ」ンコルニ附接セル「ゲ」トブル少量
 ナラサル「キ」ハ「グ」ラ「プ」子「ル」端船用或ハ「ク」リ「バ」ル「手」
 ノ如キヲ以テ「ゲ」トブルノ「エ」ンドヲ探鉤シ得ルヤ否

ヲ試ミ若シ之レヲ探鉤シ得タルキハ「ホーズ、ホール」ヨリ取入レ鎖住シテ「エンコル」ヲ引揚クヘシ然レ氏若シ前ノ如ク「チェーン」ヲ探釣シ得ルニ便ナラサルキハ「バージ」及ヒ「ビン子ース」ノ如キニ端船ニ「ホーセル」ヲ積ミ込ミ已ニ「カットル」ヲ以テ標示シタル「エンコル」ノ位置ニ至リ測鉛線ニ沿フテ「ホーセル」ノ「パイ」ト「フ垂下シテ「アップル、フリューク」ヲ探鉤シ而シテ「エンコル」ヲ巻揚クルキ「ホーセル」ノ兩部ヲ緊着シ且ツ「フリューク」ヨリ「ホーセル」ヲ脱セサル為メ「エンコル」シヤックル」ヲ嵌メテ滑下スヘシ已ニ用意整ハ、「ホーセル」ノ兩「エンド」ヲ「ホーズ、ホール」ヨリ取込ミ一方ニ「カ

キ、テークル」ヲ鉤シ他ノ一方ヲ「ケプステン」ニ巻キ以テ「エンコル」ヲ引揚クヘシ前ニ述フル如ク始メ測鉛線ヲ以テ「エンコル」ヲ探釣シ而シテ後「ホーセル」ヲ以テ引揚クルヲ輕便ノ法トナスト雖モ亦夕直チニ「ホーセル」ヲ以テ探鉤スルコトアリ

潮流アル所ニ投錨スルノ心得

潮流ノ出帆ニ關係アルカ如ク投錨ニ於ケルモ亦タ之ヲ併ヤ考ヘサルヘカラス風ト潮ノ方向同シキキハ運用ノ法常ニ異ナルコトナ

シ然レ氏爰ニ注意スヘキ事アリ船ビヲール、ゼ、ウイン
 ドニアルクキハ潮流ノ速カヲ以テ航カヲ増加スヘシ
 又「エバフト、ゼ、ビーム」ノキハ航カヲ増加スヘシト雖
 モ亦タ船ヲシテ横壓スルノ勢アリ又「エビーム」ノキ
 ハ潮流ノ全力船ヲシテ風下ニ壓流セシム又「クロー
 ス、ホールド」ノキハ潮流ノ速カ一ハ航カヲ減損シ一
 ハ船ヲ壓流スルモノトス此故ニ投錨ノ際能ク之ニ
 注意シ且ツ風潮ノ強弱ヲ比考シ以テ宜シク船ヲ運
 用スヘシ
 ビヲール、ゼ、ウインドニ順潮ニテ投錨スルニ方リ潮流
 ノ為メ風下ニ壓流セラル、カ故ニ常ヨリ早ク風上

ニ潮リ「セイル」ヲ絞リテ後投錨スヘシ若シ風潮微弱
 ナラサルキ「セイル」ヲ掛ケテ投錨スルキハ風潮同向
 ナルヲ以テ振レ廻リ烈シクシテ之レカ為メ「ケーブ
 ル」ニ劇動ヲ起ス「ア」リ
 流潮ノ方向風ニ從フト雖氏多少之レヲ横切ルキハ
 潮ニ面セル「ボ」ヲ以テ風上ニ潮ルヘシ斯クノ如ク
 スルキハ錨處ニ於テ占ムヘキ方向ヲ得ンカ為メ周
 廻スヘキ弧度他ノ方ヘ潮ルヨリ至少ナルモノトス
 但シ此方向ハ風ト潮ノ中間ニアルモノトス故ニ譬
 へハ風船尾ヨリ吹来リ潮左舷正横以後ヨリ流来ル
 キハ左舷ノ「ボ」ニ向テ風上ニ潮ルヘシ

潮ノ方向風ニ逆ヒ多少之レヲ横切ルキモ錨處ニ達
セシカ為メ潮ニ面セル「ボ」ニ向テ潮ル「前」ニ同シ

船艦羈泊ノ法

此法ハ港内甚々狹少ニシテ船廻轉スルニハ長キニ
過キ或ハ水路廣濶ナラスシテ潮流ニ從テ振廻ハル
「好」マス或ハ碇泊ノ敵艦又ハ海岸ノ砲臺ヲ襲撃
セント欲スルキニ用フルモノナリ此法ヲ名ツケテ
「ボ」ニト云フ船尾ヲ以テ錨泊スル
ノ義ナリ今舊ニ依リ船艦羈泊トナス

第一法

シート、左イン「ヲ」引揚ケ「ア」フタル、左イン、パイプ「ヲ」通

シ外ニ出シ「リング」ロ「プ」ヲ以テ其端ヲ前方ニ引キ
ス「ロ」プ、ロ「プ」ヲ用テ之レヲ鈎リ輕メ已ニ「左イン」ヲ
引テ「ボ」ニ至ラハ之レヲ「ボ」ア、エン「コ」ルニ鎖住ス
但シ此「エン」コ「ル」ニハ自己ノ「左イン」ヲ固結シ「アル」モ
ノトス儲「ボ」ア、ケ「ブ」ル「ヲ」充分ニ繰出シテ並列シ
シ「ト」、ケ「ブ」ルノミニテ繫止スヘクナシ「スト」ッ「パ」ル
ヲ多ク用意シ「ボ」ア、ケ「ブ」ル「ヲ」ビ「ット」ニ掛ケ而メ時
ヲ見テ「セイ」ル「ヲ」絞リ前進ノ勢ヲ減シテ投錨スヘシ
然ルキハ兩ケ「ブ」ルハ共ニ一個ノ「ボ」ア、エン「コ」ル
ニ固接スルカ故ニシート、ケ「ブ」ル「ヲ」卷キテ「ボ」ア、
ケ「ブ」ル「ヲ」弛ムルキハ船ノ側面ヲ一方ニ向クル「ト」

ヲ得ルカ故ニ恰モブライドルノ形ヲ以テ羈泊ス

第二法

シート、ケーブルヲボリア、エンユルニ固結セシテ
自己ノエンコルニ鎖住シ而メボリア、エンコルヲ以
テスルカ如ク船尾ノ方ニモ投錨ス但シラダ及ヒス
クリューノ損害ヲ避クル為メスリップ、ロープヲ用フヘ
シ

スプリングヲ以テ碇泊スル法

此法ハ前ニ述ヘタル舳艫羈泊第一法ト略同様ニシ
テ輕便ナル者ナリ
即チシート、左インヨリ運搬ニ於テ輕便ナル為メス

トリーム、チェーンヲ用フ或ハボイヤルヲ以テ之ニ代
用シ投錨ノ前エンコルノリングニ之レヲ固結シ又
ハ投錨ノ後ボイズ、ホールノ直外ニ於テケーブルニ
固結シ而メ後ボイヤルヲ取ト締メケーブルヲ弛メ
船ノ側面ヲ以テ羈泊スルナリ
此法ヲ以テ温熱ノ氣候ニ於テハ風透ノ為メ船ノ側
面ヲ風ニ向ケ又碇泊ノ戦争ニ於テハ射撃ノ為メ砲
口ヲ各方ノ目的ニ向クルヲ得ヘシ

汽船投錨ノ法

通常施ス處次ノ如シ程善キ時ヲ候ヒ前進ヲ徐々ニ

ナシ而メ豫定ノ錨處ニ近ツクキハ機關ノ運轉ヲ止
 メ前進ノ勢絶ユルヲ見テ後退ノ令ヲ下シ己ニ後退
 ヲ始ムルヤ否「エンコル」ヲ投下シ「ゲイブル」ヲ繰出シ
 適宜ノ長量ヲ以テ碇止セシム
 潮ニ向フキハ前進ノ儘投錨シ後退ノ令ヲ下スニ及
 ハサルヘシ其故ハ潮ノ為メニ後退シテ「ゲイブル」ヲ
 緊張スルニ足レハナリ
 然レハ風潮共ニ其勢運用ニ關スル程ナラサルキハ
 機關ヲ反轉シ投錨シテ「ゲイブル」ヲ繰出シ適宜ノ長
 量ヲ得ルマテ後退スヘシ
 投錨ノ前ニハ豫シメ其事實ヲ機關課長ニ報知シ置

キ以テ火度ヲ減シ蒸氣ノ壓力ヲ下シテ投錨ノ後多
 量ノ蒸氣ヲ一齊ニ排出スルノ已ムヘカラサルヲ避
 クヘシ但シ火度ヲ減スルモ投錨ニ差支ナキ程ノ蒸
 氣ヲ醸畜スヘシ
 汽船ヲ回轉スルニハ「ジブ」及ヒ「スパン」カルヲ用ヒテ
 之レヲ助クルコアリ

改正船具運用教授書卷之六上終

亞細亞運河教書

卷六

海軍兵學校

